

# 名取市歴史民俗資料館年報

— 令和5年度 —



2024年 11月

名取市歴史民俗資料館

# 名取市歴史民俗資料館年報

— 令和5年度 —



2024年 11月

名取市歴史民俗資料館

# 目次

<b>I. 施設の目的</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>1</b>
1. 施設の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
<b>II. 事業概要</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>1</b>
1. 事業概要と利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 令和5年度の事業概要・・・・・・・・	1
(2) 利用状況・・・・・・・・	1
(3) 令和6年度の主な事業計画・・・・・・・・	2
2. 展示・公開・・・・・・・・	4
(1) 常設展示・・・・・・・・	4
(2) 企画展示・・・・・・・・	6
(3) 名取市図書館情報発信コーナー・・・・・・・・	8
3. 学習・交流活動・・・・・・・・	8
(1) 歴史スポットめぐり・・・・・・・・	8
(2) 資料館まつり・・・・・・・・	9
(3) 歴史講座・・・・・・・・	10
(4) 講演会・・・・・・・・	10
(5) 各種案内・マナビィ出前講座・展示解説案内・・・・・・・・	11
(6) ボランティア（れきみんの会）・・・・・・・・	12
(7) 市内小学6年生（義務教育学校6年生）の訪問学習・・・・・・・・	13
4. 体験学習活動・・・・・・・・	13
5. 調査・研究活動・・・・・・・・	15
6. 資料管理・利用・・・・・・・・	15
7. 刊行物・・・・・・・・	16
<b>III. 資料</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>17</b>
1. 施設概要・・・・・・・・	17
2. 組織・職員体制・・・・・・・・	18
3. 予算・・・・・・・・	18
4. 条例・規則・・・・・・・・	18
5. 沿革・・・・・・・・	20
<b>IV. 調査研究報告</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>21</b>
1. 名取市飯野坂遺跡採集の弥生土器（2）・・・・・・・・	21

## I. 施設の目的

### 1. 施設の目的

名取市歴史民俗資料館は、約2万年にわたる長い歴史の中で蓄積され、大切に受け継がれてきた歴史文化を、保存・活用するための拠点として整備されました。それらは郷土の歴史や成り立ち、先人たちの営みを知る上で欠かすことの出来ない共有の財産であり、永く後世へ受け継いでいく必要があります。当資料館では、この大きな目標の達成に向けて、以下の様な目的を持った活動を行ってまいります。

- 1) 展示や歴史的な体験活動を通して、名取の歴史文化に触れる機会を提供します。
- 2) (郷土の歴史文化に関わる) 歴史的な体験などを通じて、歴史文化への興味関心を高めます。
- 3) 歴史文化やふるさとへの関心を高め、歴史文化の保存・活用を図ります。

## II. 事業概要

### 1. 事業概要と利用状況

#### (1) 令和5年度の事業概要

令和5年度は、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更されたことを受け、引き続き感染拡大防止対策をとりながらも、イベント等の中止や延期もなく、徐々に通常の運営を取り戻しながら事業を実施することができました。

ここで、令和5年度に実施した主な事業・活動について以下に概要をまとめました。

展示・公開事業としては、「考古の展示室」と「歴史・民俗の展示室」の常設展示と、計4回の企画展示を実施しました。企画展示は、今年度のメインテーマを「江戸時代」に関するものとし、テーマに応じてそれぞれ80日前後の期間で開催しました。

学習・交流事業としては、主に4つの事業を実施しました。1つ目の「歴史スポットめぐり」では、当館のフィールド施設である市内の歴史スポットを、職員が解説しながらバスやウォーキングでめぐり、参加者の理解・関心を高める活動に繋がりました。2つ目は11月に実施した資料館最大のイベントである「資料館まつり」で、歴史文化に因んだ催しや活動、活動成果を披露する機会提供の場となりました。3つ目は各種講座・講演会の事業で、「名取の歴史講座」の開催（5回）や、講演会（2回）、出前講座等への講師派遣などを実施しました。4つ目は「ボランティア活動」で、歴史民俗資料館ボランティア（愛称：れきみんの会）が、来館者対応や自主企画事業として調査活動やイベントの企画・運営を行いました。

体験学習事業としては、様々な体験活動を実施し、事前予約により実施したものと資料館まつりで随時実施したもの、依頼を受けて個別に実施したものを含め、計23回実施しています。

調査・研究事業は、体験学習メニューの充実を図るための検討や、まだ情報が少なく実態が判らない市内の遺跡等について、収蔵資料や新発見の資料などを整理して公開・活用するもので、成果は本年報に掲載しています。

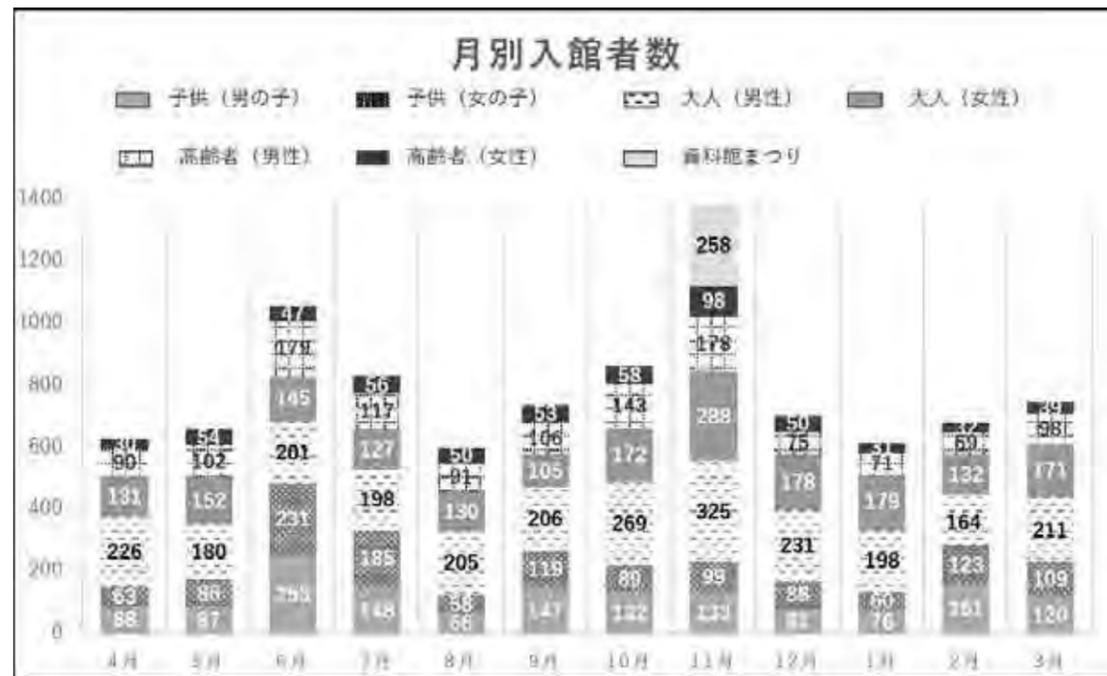
#### (2) 利用状況

令和5年度の1年間における入館者数は、昨年度を上回る9,243人で、令和2年5月31日（日）のグランドオープンから令和5年3月末現在の総入館者数は延べ39,908人となっています。

月	子供 (男の子)	子供 (女の子)	大人 (男性)	大人 (女性)	高齢者 (男性)	高齢者 (女性)	外国人 (男性)	外国人 (女性)	資料館 まつり	来館者	日平均	日数	開館日
4月	88	63	226	131	90	30	0	0		628	24	30	26
5月	87	86	180	152	102	54	0	0		661	25	31	26
6月	253	231	201	145	179	47	0	0		1056	41	30	26
7月	148	185	198	127	117	56	0	0		831	32	31	26
8月	66	58	205	130	91	50	0	0		600	22	31	27
9月	147	119	206	105	106	53	0	0		736	28	30	26
10月	132	89	269	172	143	58	0	0		863	33	31	26
11月	133	99	325	288	178	98	0	0	258	1121	43	30	26
12月	81	88	231	178	75	50	0	0		703	29	31	24

月	子供 (男の子)	子供 (女の子)	大人 (男性)	大人 (女性)	高齢者 (男性)	高齢者 (女性)	外国人 (男性)	外国人 (女性)	資料館 まつり	来館者	日平均	日数	開館日
1月	76	60	198	179	71	31	0	0		615	26	31	24
2月	161	123	164	132	69	32	0	0		681	27	29	25
3月	120	109	211	171	98	39	0	0		748	28	31	27

R2来館者	1139	1103	2263	1617	811	512	2	1	143	7591	30	305	251
R3来館者	1360	1434	2247	1562	728	340	0	0	312	7671	30	365	258
R4来館者	1688	1438	2450	1814	956	471	1	0	280	8818	29	365	308
R5来館者	1492	1310	2614	1910	1319	598	0	0	0	9243	30	366	310
合計	6768	6408	11376	8114	4722	2373	3	1	735	39908	30	1767	1311



### (3) 令和6年度の主な事業計画

令和6年度に実施予定の、資料館が主催する主なソフト事業について、概略を以下に記載しています。ここで記載した事業の内容や、実施時期などについては、あくまでも現段階での計画であるため、今後の状況により、大きく変更となることや実施回数の増減が想定されることをご留意願います。

#### ①展示・公開事業

##### 1) 常設展示

観覧者にとって分かりやすい内容となるよう、補助パネルや解説シート設置などの工夫や、季節毎の室内装飾、代替品との展示替えなども検討しながら実施予定です。

##### 2) 企画展示

令和6年度のメインテーマは令和5年度に引き続き「江戸時代」とし、これについての展示を2回、市史編さん事業についての展示を1回、発掘調査についての速報展を1回の計4回の企画展示開催を想定しています。内容や期間、回数なども含め、状況に応じて柔軟に変更することを基本としています。

第16回企画展「名取の山あいの村々ー江戸時代の水と祈りー」

令和6年4月7日(日)～6月23日(日):78日間

第17回企画展「THE 横穴墓わーどー熊野堂横穴墓群の世界ー」

令和6年7月7日(日)～9月22日(日):78日間

第18回企画展「名取の名物自慢ー平野の実りと海辺の恵みー」

令和6年10月6日(日)～12月22日(日):78日間

第19回企画展「令和5年度 発掘調査報告展」

令和7年1月5日(日)～3月22日(日):78日間

#### ②学習・交流事業

##### 1) 歴史スポットめぐり

資料館開館当初から開催している海と山それぞれをメインとした「メジャーコース」に加え、愛島笠島・北目地区周辺の文化財をめぐる「山あいの村歩き」や閑上周辺の文化財をめぐる「閑上の歴史めぐり」など、計5回を予定しています。

山あいの村歩き (5月頃) : 愛島笠島・北目地区コース

第1回歴史スポットめぐり (4月頃) : メジャーコース

第2回歴史スポットめぐり (11月頃) : メジャーコース

企画展関連親子イベント閑上の歴史めぐり (11月頃) : 閑上地区コース

第3回歴史スポットめぐり (3月頃) : 旧石器・縄文コース

##### 2) 第5回 資料館まつり

資料館最大のイベントである「資料館まつり」は10月頃の開催を予定しています。開催日については「秋まつり」を含め、他の行事の日程なども勘案しながら決定する予定です。各イベント等の実施場所は、昨年同様、下記を基本に内容の変更や充実を図りながらの実施を検討しています。

屋外メインステージ (民俗芸能披露2件、昔ばなし語り、吹奏楽演奏ほか)

展示室 (展示案内・解説)

体験学習室 (まが玉づくり、缶バッジづくり、火おこし、歴史スタンプづくり)

古墳ふれあい広場 (はに輪投げ、水鉄砲の的あて)

物販 (ドリンク、雑貨など)

※ カッコ内は第4回目の主な実施内容です。

##### 3) 歴史講座・講演会

###### ●歴史講座

名取の歴史や民俗、自然などを学ぶ講座を計4回開催する予定です。実施時期や内容については未確定ですが、主に企画展示の関連イベントとして、企画展示内容に関わる講座を実施する予定です。

第1回 歴史講座 (5月頃) 13:30～15:00

第2回 歴史講座 (8月頃) 13:30～15:00

第3回 歴史講座 (12月頃) 13:30～15:00

第4回 歴史講座 (2月頃) 13:30～15:00

###### ●講演会

令和6年度のメインテーマである「江戸時代」などに関する講演会を、外部講師を招いて開催する事を検討しています。

###### ●各種案内・出前講座

昨年度同様、随時の依頼によるものや、市の出前講座への申し込みによる講師派遣などを含め、資料館の展示解説や、市の主な文化財、歴史スポットなどの案内や説明を行います。実施にあたっては、出来るだけニーズに合わせながら対応する予定です。

##### 4) ボランティア研修講座

当資料館では、現在約31名のボランティアの方々が活動しています。資料館の事業や活動の円滑な実施を図るとともに、資料館とボランティアの方々が連携を図りながら、より充実した活動を行い、利用者の満足度や利便性の向上につながるよう、新規ボランティアを対象とした展示解説や体

験学習サポートのための研修講座を年5回実施する予定です。これらは既に活動しているボランティアのスキルアップ講座も兼ねていますが、ほかにも、展示解説の案内人や体験学習の講師を務めるための追加研修を実施する予定です。また、資料館主催の各種講座やイベントなどにも研修を兼ねて参加していただきながらの活動を予定しています。

### 5) 市内小学6年生（義務教育学校6年生）訪問学習

本格的に歴史の学習がはじまる小学校6学年（義務教育学校6年生）を対象に、資料館への訪問学習を実施し、郷土の歴史や先人たちの暮らしについて学ぶ機会を提供します。具体的には、資料館が作成した学習ノートを活用した展示室での学習活動や、まが玉づくりなどの体験を組み合わせた活動を計画しています。実施にあたっては、各学校の要望に合わせながら、柔軟に対応する予定です。また、スムーズに訪問学習を実施するため、移動手段の確保なども検討しています。

## ③体験学習事業

魅力ある体験メニューを用意し、来館者の体験活動のサポートなどを行います。

### 1) 体験学習・体験イベント

令和5年度に実施した体験学習メニューを基に、令和6年度以降も内容を検討しながら、メニューの充実を図る予定です。

まが玉づくり・拓本しおりづくり・竹の水鉄砲づくり・ミニ縄文土器づくり・ミニ埴輪づくり・タデアイの生葉染め・タデアイの煮出し染め・火おこし・けしごむはんこづくり・アンギン編みのミニ敷物づくり・稲わらで正月飾りづくり・紙漉き・網代編みの敷物づくり

### 2) 実施検討メニュー

今後も体験学習メニュー数を増やしたり、内容のブラッシュアップを図ったりしながら実施していく予定です。下記の内容に限らず、柔軟にメニューを取り入れながら実施していきます。

歴史スタンプでうちわづくり・和綴じ本づくり

## ④調査研究事業

当資料館では、歴史や考古、民俗などをはじめとする多様な歴史文化の保存・活用を行っており、特に本市に関わるものについて、引き続き調査・研究を進める予定です。資料館が実施する学習交流や体験活動などを通じて、多くの方々から寄せられる情報なども参考にしながら、その成果の蓄積・継承や活用を行います。主な対象は、以下のものが想定されますが、具体的な内容については柔軟に実施する予定です。

名取の歴史・民俗に関する調査研究、体験メニューの開発に関する調査研究、資料館利用学習のプログラムに関する調査研究、ボランティアスタッフとの協働調査研究、上記の研究成果をまとめた報告書の刊行

## 2. 展示・公開

### (1) 常設展示

約2万年前頃から受け継がれてきた多くの歴史文化の中から、特に名取市の歴史文化の特徴や魅力を物語る6つのテーマに絞って、写真・映像・解説などにより分かりやすく紹介しています。

展示室は「考古の展示室」と「歴史・民俗の展示室」の2つの展示室があります。

#### ①オリエンテーションルーム

常設展示はテーマに絞った展示になっていることから、市の歴史文化の概要や大きな流れを把握しにくいおそれがあります。そこで入口脇にあるオリエンテーションルームでは、60インチのモニターの2つの映像を通じて、予め本市の歴史の流れや概要を見た上で常設展示などをご覧頂くことを意図したものです。2つの映像は、通史を紹介する「なとり歴史の旅」と市内の主な歴史スポットを上空から紹介する「なとりの歴史 空中散歩」と言う10分程度のもので、ボタンで選択して見ることができます。

#### ②考古の展示室

雷神山古墳をはじめとする、旧石器時代から平安時代頃にかけての発掘調査の出土品や資料を中心に紹介しています。

入口正面には、導入部として自然環境と人々の暮らしの広がりを視覚的に見ることが出来る「考古資料からみた名取」のコーナーがあります。名取市の地形模型に現在の市の様子や、過去の海岸線と人々の暮らしの広がりを、大きく4つの時期に分けて、プロジェクションマッピングにより、海岸線などをはじめとする自然環境の変化と、それに応じて丘陵部から平野部へと拡大していく生活区域の変遷をイメージと音声で理解することが出来ます。

展示エリアは、テーマ毎に大きく3つのゾーンに分かれています。

##### 【テーマ1：愛島・高館の森や海辺の丘と縄文の暮らし】

市西部の丘陵や「名取が丘」がある丘陵で展開された、市の歴史の原点とも言える旧石器時代や縄文時代の暮らしに焦点をあてたものです。自然との共生の中で、生活の舞台として選ばれたことを物語る文化財を展示しています。コーナーの最後には、考古展示室が対象とする時代の年表があります。

●主な内容：野田山遺跡、泉遺跡、今熊野遺跡、前野田東遺跡、宇賀崎貝塚、金剛寺貝塚

##### 【テーマ2：雷神山古墳と花開いた古墳文化】

古墳文化繁栄のシンボルであり、当時は東北の中心であったことを物語る「雷神山古墳」のほか、多数の古墳、他の地域との交流を伝える出土品に焦点をあてたものです。また、稲作をはじめとする大陸文化の伝来により、その繁栄の基礎がつけられた弥生時代の文化財も含め展示しています。

●主な内容：十三塚遺跡、原遺跡、今熊野遺跡、雷神山古墳、飯野坂古墳群、下増田飯塚古墳群

##### 【テーマ3：名取郡の成立と実方中将】

8世紀（700年代）の初め頃の「名取郡」成立により、歴史の舞台に「名取」が登場します。名取郡には当時の陸奥国府が置かれるなど、それ以前と同様に政治・文化の中心地でした。丘陵部には多賀城へと続く東山道が整備され、平安時代の著名な歌人「藤原実方」の旧跡をはじめ、様々な暮らしの痕跡が残されており、平野部でも大きな集落が営まれました。

●主な内容：清水遺跡、笠島廃寺跡、藤原実方の墓、道祖神社、前野田東遺跡、熊野堂横穴墓群

#### ③歴史・民俗の展示室

熊野三社をはじめとする、平安時代以降の歴史や暮らしに関する資料をご紹介します。

展示エリアは、テーマ毎に大きく3つのゾーンに分かれています。

##### 【テーマ4：熊野三社と名取の老女】

平安後期に成立と伝わる熊野三社は、全国3,000か所以上ある熊野ゆかりの社寺の中で、紀州熊野三山と同じく、本宮・新宮・那智の3社を個別に祀り、位置関係なども似せるなど、全国的にも珍しい特徴を有し、多くの関連する文化財が伝えられています。その成立に深く関わる「名取老女」の伝承や旧跡にも焦点をあてた展示です。



モニターでは「見てみよう！熊野三社の伝説と芸能」があり、タッチパネルで見た神楽などの映像を見ることが出来ます。その前面には昭和50年頃の熊野三社付近の様子を再現した模型で位置関係や立地環境が分かります。

●主な内容：熊野本宮社、熊野神社（新宮社）、熊野那智神社、熊野新宮寺、大門山遺跡

【テーマ5：増田宿と洞口家・旧中沢家住宅】

仙台藩に属した江戸時代には、市中央の奥州街道沿いに増田宿の「まち」が、平野部には洞口家住宅などの水田・堀・いぐねに象徴される田園集落、西部の丘陵部や谷筋などには、鎮守・村堂・山林・池・墓地などで構成される、暮らしの原風景ともいえる素朴な集落が営まれました。それぞれの環境に応じて展開した暮らしに焦点をあてた展示です。敷地も含めた洞口家住宅の模型や、迫力ある釜さまも展示されています。

●主な内容：館腰神社、洞口家住宅、衣笠の松、鶴見屋土蔵、旧中沢家住宅

【テーマ6：貞山運河と閑上】

名取川河口の港まち閑上は、仙台と外洋をつなぐ物資運搬や漁業・農業を生業とし、江戸時代には藩直轄の港として、「貞山運河」や名取川を通じた城下への材木・米の運搬などで賑わいました。明治には、増田・閑上の2つの「まち」を結ぶ新道が、大正末～昭和初期には、増東軌道が整備されました。この様な、海岸文化の拠点としての特色に焦点をあてた展示です。コーナー内には、歴史民俗の展示室の展示に関わる年表やマップもあります。

●主な内容：貞山運河、増東軌道、閑上土手の松並、閑上大漁唄込み踊、日和山、津波碑

【名取のくらしの道具】

常設展示の6つのテーマのほか、弥生時代から人々の暮らしを支えてきた米作りをはじめ、かつては名取でも行われていた養蚕、宿場町などで使われていたと思われる生活の道具などを展示したコーナーを設けています。

(2) 企画展示

①第12回企画展「増田宿と奥州街道沿いの歴史文化」

○展示内容：江戸時代に整備された、東北地方を代表する幹線道である奥州街道。この街道沿いにあった増田宿をはじめとする街道周辺の文化財などについてご紹介しました。

○会期：令和5年4月9日（日）～6月25日（日）

○開催日数：78日間 ○入館者：2,121人

○展示資料：衣笠の立て看板、天満宮御神輿など

○関連事業：歴史講座・増田宿歩き、展示解説案内

○担当者名：鈴木舞香、安孫子礼美



②第13回企画展「わたしたちの『名取市史』」

○展示内容：新『名取市史』の編さん事業に関連して、過去に刊行された郷土誌の冊子とともに、名取市域における歴史書の編さん事業、そして新しい『名取市史』の編さんに向けた取り組みなどをご紹介します。

○会期：令和5年7月9日（日）～9月24日（日）○開催日数：78日間

○入館者：1,751人

○展示資料：旧『名取市史』本冊、東多賀村郷土誌（再販本）など

○関連事業：講演会、講座、展示解説案内

○担当者名：名取市史編さん室 小野寺崇良、鳥居建己、名取市歴史民俗資料館 鈴木舞香

③第14回企画展「名取熊野三社 900年の歩み」

○展示内容：名取熊野三社と呼ばれている熊野本宮社、熊野神社（新宮社）、熊野那智神社の三社は、熊野神社に伝わる「熊野堂縁起」によると、保安4年（1123）に名取老女により勧請されたと伝えられ、令和5年はちょうど900年の節目の年にあたります。本企画展では関連する文化財とともにその歴史を振り返りました。

○会期：令和5年10月8日（日）～12月24日（日）○開催日数：78日間

○入館者：2,452人

○展示資料：熊野那智神社懸仏・銅鏡、紺紙金泥法華経など

○関連事業：熊野三社歴史ウォーキング、講演会、講座、展示解説案内

○担当者名：鶴崎哲也

④第15回企画展「令和4年度発掘調査報告展」

○展示内容：令和4年度に実施した発掘調査に関連して、十三塚遺跡を中心に遺跡の立地する小丘陵での縄文～古墳時代における人々のくらしの様相を、これまでの調査で出土した考古資料から探りました。

○会期：令和6年1月7日（日）～3月24日（日）○開催日数：78日間

○入館者：1,781人

○展示資料：十三塚遺跡遺跡出土品など

○関連事業：講演会、講座、展示解説案内

○担当者名：庄子美祐、大友健太郎、相澤清利



	企画展名	期間	入館者
第1回	なとりの王が教える 名取の古墳	令和2年5月31日（日）～9月6日（日）	2,702
第2回	山田古墳のお宝 一時里帰りした名取の至宝	令和2年9月19日（土）～12月20日（日）	2,818
第3回	令和元年度発掘調査報告展	令和3年1月9日（土）～3月28日（日）	1,690
第4回	名取熊野三社と周辺の歴史文化遺産	令和3年4月10日（土）～6月27日（日）	1,726
第5回	海辺の豪族の墓－経ノ塚古墳－	令和3年7月11日（日）～9月26日（日）	1,282
第6回	名取熊野三社と周辺の歴史文化遺産2－中世後半～近世－	令和3年10月10日（日）～12月26日（日）	2,240
第7回	令和2年度発掘調査報告展	令和4年1月9日（日）～3月27日（日）	1,600
第8回	名取の貝塚－海や潟湖と縄文人の暮らし－	令和4年4月10日（日）～6月26日（日）	2,121
第9回	織物の歴史とその道具－糸から布へ－	令和4年7月10日（日）～9月25日（日）	2,009
第10回	名取の縄文ムラ－森と縄文人の暮らし－	令和4年10月9日（日）～12月25日（日）	1,889
第11回	令和3年度発掘調査報告展	令和5年1月8日（日）～3月26日（日）	1,593
第12回	増田宿と奥州街道沿いの歴史文化	令和5年4月9日（日）～6月25日（日）	1,909
第13回	なとり市史企画展 わたしたちの『名取市史』－「市史」ってなあに？	令和5年7月9日（日）～9月24日（日）	1,751
第14回	名取熊野三社900年の歩み	令和5年10月8日（日）～12月24日（日）	2,452
第15回	令和4年度発掘調査報告展	令和6年1月7日（日）～3月24日（日）	1,781

### (3) 名取市図書館情報発信コーナー

多くの方に名取市の歴史・文化を知ってもらえるよう、名取市図書館の情報発信コーナーで、時代ごとにテーマを設けて展示・公開をしています。

## 3. 学習・交流活動

### (1) 歴史スポットめぐり

#### ①市内歴史スポットめぐり

市内歴史スポットめぐりは、資料館の展示と市内各所に点在する魅力あふれる歴史スポットを、職員の解説を聴きながらバスでめぐるツアーです。令和5年度は、5月・9月に2回ずつ、3月に1回、計5回のスポットめぐりを実施しました。市内を代表する歴史スポットをめぐるコースを設定し、各回バス2台を借りて実施しました。今後も新しいコースを増やししながら、継続的に取り組んで行く予定です。

#### 【旧石器・縄文コース】

旧石器から縄文時代の暮らしの舞台となった愛島や高館周辺の歴史スポットをめぐるコースです。

●宇賀崎貝塚→名取大塚山古墳・賽ノ窪古墳群→泉遺跡・前野田東遺跡→野田山遺跡→今熊野遺跡→金剛寺貝塚→文化財収蔵館→十三塚遺跡・旧中澤家住宅

#### 【おすすめコース①】

市内の主要な歴史文化スポットの中から、市西部の高館や愛島地区の丘陵部と、中央の増田地区などを中心に回るコースで、熊野三社や藤原実方の墓などのほか、雷神山古墳や旧中澤家・洞口家住宅をめぐるコースです。

●熊野那智神社→熊野本宮社→熊野神社（新宮社）→藤原実方の墓→十三塚遺跡→旧中澤家住宅→雷神山古墳→衣笠の松→洞口家住宅

#### 【おすすめコース②】

市内の主要な歴史文化スポットの中から、市中央部の増田や東部の下増田・閑上地区を中心に回るコースで、下増田飯塚古墳群や、閑上の日和山、閑上土手の松並などのほか、雷神山古墳や旧中澤家住宅をめぐるコースです。

●十三塚遺跡・旧中澤家住宅→雷神山古墳→飯野坂古墳群→下増田飯塚古墳群→日和山・貞山運河→震災復興伝承館→閑上土手の松並

#### 【名取熊野三社めぐりコース】

市内の主要な歴史文化スポットの中から、高館の熊野三社および下余田の熊野三社のほか、新宮寺や名取老女の墓など、名取熊野三社に関連する歴史スポットを巡るコースです。

●熊野那智神社→熊野本宮社→熊野神社（新宮社）→熊野山新宮寺→駒王丸の墓（ごりんさま）→日向古碑群→榎木屋敷→烏の宮・老女神社跡→名取老女の墓・下余田熊野三社

#### 1) 第1回歴史スポットめぐり

日時：5月20日（土）9：00～15：00 参加者：17人  
内容：おすすめコース①

日時：5月21日（日）9：00～15：00 参加者：12人  
内容：おすすめコース②



藤原実方の墓



雷神山古墳



熊野那智神社

#### 2) 第2回歴史スポットめぐり

日時：9月23日（土）9：00～15：00 参加者：24人 内容：名取熊野三社めぐりコース

日時：9月30日（土）9：00～15：00 参加者：15人 内容：名取熊野三社めぐりコース

#### 3) 第3回歴史スポットめぐり

日時：3月16日（土）9：00～15：00 参加者：19人 内容：旧石器・縄文コース

#### ②熊野三社歴史ウォーキング

熊野三社歴史ウォーキングは、職員の解説を聴きながら、熊野那智神社・熊野本宮社・熊野神社をめぐるウォーキングイベントで、今年度は11月に開催しました。

日時：11月25日（土）8：45～12：00 参加者：14人

#### ③資料館バックヤードツアー

資料館のバックヤード施設である文化財収蔵館の見学会を行いました。資料館での展示見学後、収蔵館で普段見ることができない資料や、資料収蔵の様子を見学しながら、資料整理のための拓本とり体験を行いました。

日時：10月21日（土）13：30～15：30 参加者：10人

#### (2) 資料館まつり

当資料館が主催する1年で最大のイベントである資料館まつりの第4回目を、令和5年11月11日（土）に開催しました。当日は秋晴れの天候に恵まれ、家族連れなど延べ258名の方々に来館頂きました。

会場では、名取の歴史のシンボルでもある雷神山古墳をイメージした「古墳クッキー」がもらえるスタンプラリーのほか、ステージでは民俗芸能や昔ばなし、吹奏楽の披露、体験学習室ではまが玉づくり体験や火おこしなど、様々な催しが行われました。

日時：11月11日（土）10：00～14：00 参加者：258人

#### 【メインステージ】

敷地内の駐車場に設けられたメインステージでは、「エフエムなとり」のMCのもと、午前中には、道祖神神楽保存会の皆さんによる、市指定無形民俗文化財「道祖神神楽」や、手倉田枅取り舞保存会の方々による、市指定無形民俗文化財「手倉田枅取り舞」の披露のほか、資料館ビンゴや資料館クイズなどの企画が行われました。また、午後からは、なとり昔ばなし語りの会の皆さんによる、味わい深いなとりの昔ばなしや、名取市立第二中学校吹奏楽部の皆さんによる迫力ある生演奏などを披露していただきました。

#### 【古墳ふれあいひろば】

古墳ふれあい広場では「はに輪投げ」や「竹の水鉄砲的あて」、「竹馬・竹ぼっくり」が行われました。「はに輪投げ」は、名取の古墳からも見つかった円筒埴輪のレプリカを的にした輪投げです。「竹の水鉄砲的あて」は、れきみんの会が作製した竹製の水鉄砲を使った的あてです。「竹馬・竹ぼっくり」はれきみんの会で作製した竹馬と竹ぼっくりに乗ってみる体験です。どれもれきみんの会主体で運営され、「はに輪投げ」や「竹の水鉄砲的あて」では、5回中すべての輪投げや的あてに成功した方に古墳クッキーをプレゼントしました。また、時間限定で行われたスペシャルタイムでは、難易度がやや下がり、5回中3回以上成功した方にクッキーをプレ



ゼントしました。どちらも大人気のイベントとなり、大人から子供まで楽しめる企画となりました。

【体験イベント】

体験学習室内では、まが玉づくり、缶バッジづくり、歴史スタンプづくりを行いました。屋外では、火おこし体験を行いました。主にれきみんの会のみなさんが指導や補助を行い、来館者の方々の活動をサポートしました。

【その他】資料館スタンプラリー、物販コーナー

受付前には、心の病で障がいをお持ちの方への就労支援を行っている名取市友愛作業所にご協力頂き、物販コーナーを設置しました。

(3) 歴史講座

①第1回歴史講座&増田宿歩き

内容：第12回企画展の関連イベントとして、企画展の内容を分かりやすく解説した後、実際に街道沿いを歩き増田周辺の文化財をめぐるしました。

日時：4月29日(土) 9:00～12:00 参加者：27人 講師：安孫子礼美・鈴木舞香

②第2回歴史講座&増田宿歩き

内容：第12回企画展の関連イベントとして、企画展の内容を分かりやすく解説した後、実際に街道沿いを歩き増田周辺の文化財をめぐるしました。

日時：5月27日(土) 9:00～12:00 参加者：23人 講師：安孫子礼美・鈴木舞香

③第3回歴史講座『「地域の歴史」編さんと名取～近世から現代まで～』

内容：第13回企画展の関連イベントとして実施した講座です。

日時：7月30日(土) 13:30～15:00 参加者：45人 講師：小野寺崇良(市史編さん室)

④第4回歴史講座 ※中止

内容：第14回企画展の関連イベントとして実施した講座です。

日時：10月28日(土) 13:30～15:00 講師：鶴崎哲也

⑤第5回歴史講座「令和4年度発掘調査について」

内容：第15回企画展の関連イベントとして実施した講座です。

日時：2月10日(土) 13:30～15:00 参加者：25人 講師：庄子美祐・大友健太郎

⑥第6回歴史講座

内容：10月に中止となった第14回企画展の関連イベントとして改めて実施した講座です。

日時：3月9日(土) 13:30～15:00 参加者：44人 講師：鶴崎哲也

(4) 講演会

①「街道の変遷と増田宿の歴史」

第12回企画展の関連イベントとして開催された講演会です。企画展のテーマである街道と増田宿について、その変遷や実態などをわかりやすくお話いただきました。

日時：6月24日(土) 13:30～15:00 参加者：58人

講師：菅野正道氏(郷土史家・元仙台市史編さん室長)

会場：体験学習室

②「十三塚遺跡から考える名取川下流域の弥生文化」

第15回企画展の関連イベントとして開催された講演会です。十三塚遺跡を中心とし、縄文時代～古代までの十三塚遺跡周辺の人々の生活や文化について、同時期の東北地方やその他地方、そして朝鮮半島などと比較し、広域かつ様々な観点からお話いただきました。

日時：1月28日(日) 13:30～15:00 参加者：25人

講師：斎野裕彦氏(日本災害・防災考古学会副会長)

会場：体験学習室



(5) 各種案内・マナビィ出前講座・展示解説案内

①各種案内等

団体への施設案内のほか、歴史スポットでの案内など、計27件にのぼる依頼に応じて各種案内を行いました。

団体名	日時		人数	講座名/内容	対象
名取市新採用職員施設見学	4月12日	13:00～14:00	24	展示見学	一般
社会福祉法人みのり会名取市みのり園	5月13日	11:30～12:00	13	展示見学・まが玉づくり	一般
令和5年度名取市職員OB会	5月18日	10:30～12:00	50	講演会「悠久なる名取の歴史ロマン」	一般
尚綱学院大学	5月28日	9:00～11:00	16	展示見学	一般
仙台市青葉区中山中央町内会	6月18日	13:30～14:00	35	現地案内(藤原実方の墓)	一般
高館小学校	6月21日	10:00～10:45	21	講話「高館のお宝発見」	小学生
南海国際旅行	7月8日	14:50～15:50	15	展示見学	一般
海の子・山の子交歓会	7月27日	12:50～15:10	35	展示見学	一般・小学生
仙台市富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム) 市民文化財研究員	8月2日	10:00～11:30	15	展示見学	一般
名取市インターン	8月22日	10:20～11:00	2	展示見学	一般
名取市校長会	8月24日	8:30～12:30	20	展示見学	一般
イオンモール株式会社	9月10日	14:00～16:30	30	まが玉づくり	一般
三春町教育委員会	9月21日	14:10～15:00	31	現地案内	一般
増田西地区福祉委員会	9月29日	9:40～10:30	13	展示見学	一般
宮城歴史教育研究会	10月1日	11:50～13:00	27	展示見学	一般
三春町教育委員会	10月6日	13:20～14:00	25	現地案内(雷神山古墳)	一般
名取老女をひろめたい (2023 なとりこどもファンド事業活動団体)	10月9日	13:00～17:00	10	展示見学	一般
名取市職員OB会	10月17日	9:40～10:40	25	展示見学	一般
名取市教頭会	10月19日	9:00～12:00	25	展示見学	一般
山形県上市市宮生地区公民館	10月25日	13:10～14:00	16	展示見学	一般
国指定重要文化財旧尾形家住宅保存会	11月4日	9:30～11:30	20	現地案内(旧中澤家住宅、 洞口家住宅)	一般
リビング仙台/株式会社ユーメディア	11月12日	11:00～11:40	8	展示見学	一般
名取市館腰公民館(「めぐって学ぶ館腰の歴史講座」)②	11月16日	10:00～11:30	15	現地案内(雷神山古墳ほか)	一般
せんば会	12月5日	11:00～12:00	35	現地案内(雷神山古墳)	一般
名取市館腰公民館(「めぐって学ぶ館腰の歴史講座」)③	12月7日	14:30～16:30	17	まが玉づくり、展示見学	一般
名取市館腰公民館(「めぐって学ぶ館腰の歴史講座」)①	1月18日	14:30～16:30	19	講座「名取の歴史と文化財」	一般
歴史探訪 日高見国研究会	2月25日	13:30～14:20	11	展示見学	一般

②マナビィ出前講座

生涯学習推進事業として市で実施しているマナビィ講師派遣事業「出前講座」からの依頼に応じて、資料館職員の講師派遣を行いました。

依頼団体	日時		人数	講座名/内容	構成
美田園八丁目町内会	9月3日	16:00～17:00	10	講座「名取の歴史と文化財」	一般
ゆりが丘公民館	9月26日	10:00～11:30	12	講座「出前資料館」	一般
下余田町内会 出前講座	12月3日	9:30～12:00	38	講座「名取の歴史と文化」	一般

③展示解説案内

企画展の実施に合わせて、資料館の職員が常設展示および企画展示の内容や見どころを案内したもので、当日集まった方を対象に行っています。実施日は、4月15日(土)、7月15日(土)、10月14日(土)、1月13日(土)で、1日各2回の計8回です。1回あたりの説明時間は約1時間の予定ですが、参加者の方々からの質問等があるときには90分近くに及ぶこともあります。

## (6) ボランティア (れきみんの会)

現在、約31名のボランティアの方々が資料館ボランティアとして活動しています。この活動は、当館が行う事業の円滑な実施を図るとともに、活動を通じてボランティアと資料館が相互に成長し、より充実した資料館の活動や地域づくり、人材育成へつなげることなどを目的としたものです。

令和3年度には設立総会が開催されて名取市歴史民俗資料館ボランティア会(愛称:れきみんの会)として、資料館で開催されるイベントの補助などを行っています。令和5年度には、れきみんの会が行う自主企画として、3つの取り組みを行っています。活動内容は以下のとおりです。

### 1) 昔の遊び体験 IN 旧中澤家住宅

開催日時: 令和5年9月16日(土) 10:00~14:00

開催場所: 旧中澤家住宅(名取市手倉田字山216-93) 来場者数: 50人

内容: 竹の水鉄砲づくりやカルタ、お手玉や火おこし体験、なとり昔ばなし語りの会による昔ばなしを聞けるイベントとして開催しました。

### 2) 歴史文化の写真展

開催日時: 令和6年2月4日(日)~3月24日(日)

開催場所: 歴史民俗資料館 オリエンテーションルーム

内容: 春夏秋冬で変わる史跡や寺社の姿、あまり知られていない文化財の写真等を撮影し、これをおとして来館者へ文化財についての関心を高めてもらいながら、れきみんの会を周知することを目的として開催しました。

### 3) 調査研究

- 石造物: 市内に点在する石造物について調査し、その傾向等についてまとめる。
- 熊野三社・名取老女: 熊野三社・名取老女について学習し、展示解説を10分程度でできるようにする。  
展示解説を行う上で共通認識を持つため、ボランティア向け冊子を作る。
- 体験学習: 体験イベント案を検討する。体験サポートマニュアルを作成する。
- 昔の遊び体験 IN 旧中澤家住宅: 旧中澤家住宅で行う昔の遊び体験の準備・運営を行う。
- 写真展: 市内の史跡や文化財の写真を撮影し、写真展の準備・運営を行う。

市内小学6年生(義務教育学校6年生)の訪問学習では、展示解説やまが玉づくり体験の講師など、臨時研修を実施しながら、ボランティア活動のステップアップを行い、来館者対応等の活動も行っています。

令和6年度も新規ボランティアの募集を行い、引き続きボランティアの育成のための研修会の実施や、ボランティア会主催事業のサポートを行っていく予定です。

令和5年度に実施したボランティアを対象とした研修講座は以下のとおりです。

#### 新規ボランティア研修講座

	日時		内容	
第1回	6月13日	10:30~12:00	オリエンテーション	顔合わせ・資料館及びボランティア活動の概要説明
第2回	8月15日	10:00~12:00	体験学習実習	まが玉づくり体験受講
第3回	10月10日	10:00~12:00	展示解説実習	職員による考古の展示室解説案内
第4回	12月12日	9:30~16:00	現地研修	名取市内の文化財をバスでめぐる (熊野那智神社・熊野神社・名取大塚山古墳・ 賽ノ窪古墳群・雷神山古墳・飯野坂古墳群)
第5回	2月13日	10:00~12:00	展示解説実習	職員による歴史・民俗の展示室解説案内

#### 訪問学習研修講座

	日時		内容	
第1回	5月9日	13:30~15:30	まが玉づくり体験講師研修①	
第2回	5月16日	13:30~15:30	まが玉づくり体験講師研修②	
第3回	5月23日	13:30~15:30	展示解説案内研修①	
第4回	5月30日	13:30~15:30	展示解説案内研修②	

## (7) 市内小学6年生(義務教育学校6年生)の訪問学習

歴史の学習が始まる小学6年生を対象として、資料館での展示見学やまが玉づくり体験を行う訪問学習を実施しています。令和3年度から訪問学習を実施し、市内11校の小学校が資料館を訪れ、歴史的な体験活動や郷土の歴史文化に触れる活動を行っています。

学校名	日時		人数	内容
増田小	6月13日	9:15~11:45	37	展示見学・まが玉づくり
	6月14日	9:15~11:45	36	展示見学・まが玉づくり
	6月15日	9:15~11:45	37	展示見学・まが玉づくり
	6月30日	9:15~11:45	36	展示見学・まが玉づくり
高館小	7月13日	9:20~11:50	22	展示見学・まが玉づくり
愛島小	9月5日	9:20~11:40	34	展示見学・まが玉づくり
	9月6日	9:20~11:40	34	展示見学・まが玉づくり
	9月7日	9:20~11:40	37	展示見学・まが玉づくり
	9月12日	9:20~11:40	33	展示見学・まが玉づくり
館腰小	7月6日	9:30~12:00	30	展示見学・まが玉づくり
	7月7日	9:30~12:00	32	展示見学・まが玉づくり
下増田小	6月20日	9:00~11:00	30	展示見学・まが玉づくり
	6月20日	13:20~15:20	34	展示見学・まが玉づくり
	6月23日	9:00~11:00	34	展示見学・まが玉づくり
不二が丘小	6月23日	13:20~15:20	31	展示見学・まが玉づくり
	8月29日	9:15~11:45	23	展示見学・まが玉づくり
増田西小	8月30日	9:15~11:45	22	展示見学・まが玉づくり
	6月27日	9:20~11:30	40	展示見学・まが玉づくり
ゆりが丘小	6月28日	9:20~11:30	38	展示見学・まが玉づくり
	6月29日	9:20~11:30	38	展示見学・まが玉づくり
相互台小	7月11日	10:00~11:00	31	展示見学
	7月12日	10:00~11:00	30	展示見学
那智が丘小	6月22日	9:10~11:20	34	展示見学・まが玉づくり
	7月5日	9:10~11:20	33	展示見学・まが玉づくり
関上小中	9月8日	9:20~11:40	27	展示見学・まが玉づくり
	7月4日	9:20~11:50	46	展示見学・まが玉づくり

## 4. 体験学習活動

資料館主催の事業として参加者を募集し行った体験型のイベントです。オープン当初から実施しているまが玉づくりに加え、様々な体験メニューを増やしながら実施しています。

### ①まが玉づくり

名前の由来やその起源について学びながら、滑石を使って自分だけのオリジナルまが玉を作る体験です。



	日時		人数
6月17日	13:30~15:30	15	
9月9日	13:30~15:30	9	

### ②ミニ埴輪づくり体験

埴輪について学びながら、高さ 15 cm程のオリジナルミニ埴輪を作る体験です。



日時		人数
7月16日	13:30~15:30	19

### ③火おこし体験

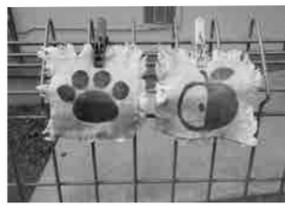
舞切り式という方法で、自力での火おこしに挑戦する体験です。



日時		人数
8月12日	13:30~15:30	14

### ④タデアイの生葉染め体験

藍染めの染料になるタデアイという植物をつかって、10 cm四方のコースターに模様をつける体験です。染めと洗いの全2回にわたる体験です。



日時		人数
7月22日	13:30~15:00	26
8月5日	13:30~14:30	

### ⑤タデアイの煮出し染め・ミニ敷物(アンギン編み)づくり

藍染めの染料になるタデアイという植物をつかい、煮出し染めで市販の毛糸を青く染め、その毛糸をつかってアンギン編みでミニサイズの敷物をつくる体験です。煮出し染めとアンギン編みの全2回にわたる体験です。



日時		人数
8月19日	13:30~15:00	18
8月26日	13:30~15:30	

### ⑥アンギン編みでミニ敷物づくり

縄文時代から伝わるアンギン編みという方法で、毛糸でできたミニサイズの敷物(10 cm四方)をつくる体験です。



日時		人数
6月10日	9:30~11:30	8

### ⑦ボランティアが教える!竹の水鉄砲づくり

むかしなつかしい竹でできた水鉄砲のつくりかたを、れきみんの会(資料館ボランティア)が伝授します。



日時		人数
8月11日	13:30~15:00	25

### ⑧けしごむはんこでオリジナル宝印を作ろう

牛玉宝印(熊野三社のお守り札)に使われるカラス文字のはんこをけしごむで作製し、オリジナル宝印をつくる体験です。



日時		人数
12月9日	13:30~15:00	13

### ⑨けしごむはんこで縄文スタンプづくり

縄文時代いつくられた土偶や土器の形をかたどったはんこをけしごむで作製し、オリジナルスタンプを作る体験です。



日時		人数
2月17日	13:30~15:00	8

### ⑩ミニ縄文土器づくり

粘土や縄などを使った高さ15 cm位のミニ縄文土器づくり体験です。



日時		人数
5月5日	13:30~15:30	19

### ⑪昔の遊び体験 IN 旧中澤家住宅

旧中澤家住宅にて、昔懐かしい竹の水鉄砲づくりやお手玉などのあそびを体験するものです。



日時		人数
9月16日	10:00~14:00	50

### ⑫稲穂で正月飾りを作ろう

稲穂を使って手作りの正月飾りを作る体験です。



日時		人数
11月18日	10:00~12:00	15
11月18日	13:30~15:30	20

### ⑬紙漉き体験

牛乳パックを使ってはがきサイズの紙をつくる紙漉き体験です。



日時		人数
12月16日	13:30~15:00	17
2月24日	13:30~15:00	21

### ⑭網代編みの敷物づくり

細長い材料を編んだり組んだりして、敷物やかごなどを作る方法の一つ、「網代(あじろ)編み」。紙バンドという現代の材料を使い、およそ14 cm四方の敷物を作ります。



日時		人数
1月20日	13:30~15:00	8
3月23日	13:30~15:00	13

## 5. 調査・研究活動

今後の体験学習メニューの候補として、竹水鉄砲づくりや、けしごむはんこを取り入れたオリジナルグッズの製作、ミニ古墳づくりなど、幾つかのものについて情報収集と試作を実施したものがああります。

また、資料整理や資料化作業を通して、調査・研究を行っています。

## 6. 資料管理・利用

### (1) 収蔵資料利用

令和5年度の収蔵資料利用としては、資料の借用や、写真の転載など計10件の利用申請がありました。また、当館の企画展示等の実施にあたっては、熊野那智神社、新宮寺、永澤金雄氏、もりおか歴史文化館、一般財団法人観世文庫、岩沼市、白石市、福岡市、仙台市、東北歴史博物館へ写真や図版資料の利用申請および資料借用申請を行いました。

### (2) 資料調査

令和5年度では、当館の収蔵資料の中から考古資料についての資料調査や閲覧・写真撮影などの依頼が計16件ありました。原遺跡出土土器や民俗資料の調査など、個人の調査・研究や名取市の市史編さん事業で利用することを目的とした調査です。今後も、収蔵資料などの情報発信に努めながら、より多くの利用が図られ、新たな知見の発見につながることも期待されます。

### (3) 寄贈・寄託

資料館の開館後、民俗資料を中心とした資料の寄贈の問い合わせなどが寄せられており、資料館の職員が、収蔵資料の状況などに基づき手続きを行い、寄贈頂いたものがあります。令和5年度には合わせて6件の資料を寄贈いただきました。寄贈いただいた資料は、金剛寺貝塚資料、宇賀崎貝塚資料、十三塚遺跡資料、甲冑類、流鏑馬関連資料、奉納旗、裁縫台などがあり、寄贈いただいた資料については、収蔵資料などへの登録を行い、今後の展示公開や体験、調査・研究活動などへ活用していく予定です。

### (4) 収蔵資料整理

市が所蔵している資料のうち、考古資料約13,000点についてはデータベース化が終了し、令和2年度からHPでの公開を開始しています。令和5年度については、考古資料の中で公開済みのデータに対して新たに739件分の画像を追加しています。また、民俗資料については、443件の画像を追加しています。歴史資料に関しては1,288件の整理作業を行いました。今後も引き続き公開済みのデータに追加する画像の準備や、新たに受け入れた寄贈資料に対しての整理・登録作業や調査など、データ化を行って公開の準備を進めていきます。

### (5) 燻蒸・調査

展示室をはじめとする当資料館の建物は、東日本大震災の後に図書館として建築された木造建築を改修したものであり、気密性や遮蔽性など、専用施設として計画された建物に比して相対的に低い状況です。また、その環境が年間の気候変動などでどのように推移していくのか、施設利用開始後の実態を調査・分析し、その結果に基づいて対応していく必要があります。また、展示物などに対して加害の恐れがある害虫や細菌類などの生息調査についても同様に必要で、一定の基準以下となるよう燻蒸処理を行う必要があります。専門業者へ業務委託を行い環境調査や収蔵・展示資料の燻蒸処理を行いました。

環境調査では、展示室のほか文化財収蔵館1階も対象区域に含め、7月から8月にかけて、10月から11月にかけての計2回、それぞれ約1ヶ月間実施しました。調査内容には①昆虫生息調査、②浮遊菌調査、③塵埃調査（温湿度・炭酸ガス・照度含）があり、その結果、①では7月から8月の調査で考古の展示室、文化財収蔵館から乾燥した動物質のものを加害するヒメマルカツオブシムシが確認されました。また、文化財収蔵館からは数量のダニがまとまって確認され、冬の時期にはヒメマルカツオブシムシの幼虫や脱皮殻が確認されたことから、該当付近の目視点検や清掃による清潔な環境維持、継続的なトラップ設置が推奨されました。②浮遊菌調査では、令和2年度から引き続き、文化財収蔵館の数値が基準値を上回り、施設自体が経年劣化などによる外気の影響を受けやすい環境にあることが示されました。梅雨時期から夏にかけて除湿機を活用するなど、高温環境への対策実施が推奨されています。③の塵埃調査では、特に異常は認められませんでした。

展示収蔵資料の燻蒸作業は、施設の特徴から建物自体の密閉が困難であることから、体験学習室の内部に骨組みによる幅4m×奥行5m×高さ1mの密閉空間を作り出し、その内部に燻蒸対象となる展示・収蔵資料を入れ込み、公益財団法人文化財虫菌害研究所の認定薬剤をガス化・充填して行う包み込み燻蒸処理により実施しました。今回燻蒸処理を行った主な資料には、歴史・民俗の展示室の常設展示資料の内、古文書資料や民俗資料、文化財収蔵館で収蔵している古文書や書籍、借用などの件数の多い民俗資料などを優先的に行いました。実施期間は約1週間で、この間、一時展示を中止した物があります。

## 7. 刊行物

資料館が作成した刊行物は、令和2年度より毎年刊行している『名取市歴史民俗資料館年報』のほか、資料館の施設案内パンフレット（両面3つ折り・日本語版および英語版有）があり、来館者や図書館をはじめとする市の関係施設などへ設置して各施設の利用者へ配布を行っています。

## III. 資料

### 1. 施設概要

平成30年12月末まで、名取市図書館として利用されてきた当館の土地や建物には、東日本大震災の後に、カナダ連邦政府、ブリティッシュコロンビア州やアルバータ州、カナダウッド、(公財)日本ユニセフ協会や(公財)図書館振興財団をはじめとする支援で建てられた施設が多くあります。当資料館の整備においては、これらの施設を出来るだけ活かしながら、市の歴史文化の保存・活用の拠点となる施設として整備しました。当館の敷地(3,871㎡)内には、(1)～(4)の4つの建物のほか駐車場・駐輪場、古墳ふれあいひろば、親子ひろばがあります。

#### (1) 考古の展示室

オリエンテーションルーム、考古の展示室、収蔵庫、トイレ、受付・事務室があります。木造平屋建て(238㎡)。壁などの建材にはカナダツガ材が使用され、木の温もりを感じることができる建物です。平成25年のカナダ東北復興プロジェクトによる支援で建築された建物を活用しています。

#### (2) 歴史・民俗の展示室

歴史・民俗の展示室、企画展示室、情報検索ブース、トイレがあります。木造平屋建て(157㎡)の建築で、壁などの建材には杉材が用いられ、木の温もりを感じることができる建物です。平成23年10月に公益財団法人日本ユニセフ協会の支援で建築した建物を活用しています。

#### (3) 体験学習室

体験学習室と収納室があります。鉄骨造平屋のプレハブ(188㎡)建築です。室内では各種講座や講演会、まが玉づくりや、土器づくりなどの体験イベントなどを行うことができ水道も使用できます。テーブル・椅子を並べた場合、およそ40人での使用ができ、椅子だけを並べた場合には、約50人での使用が可能です。

#### (4) ボランティア室

資料館で活躍するボランティアさんの活動などを行う施設です。鉄骨造平屋プレハブ(66㎡)の建物です。平成23年10月に公益財団法人 図書館振興財団の支援で建築した建物を移設し活用しています。

#### (5) 古墳ふれあいひろば

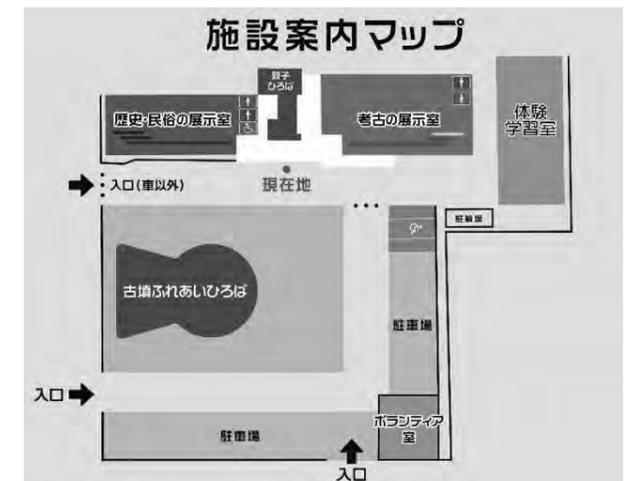
雷神山古墳のおよそ1/10サイズの前方後円墳をモチーフとした盛土や遊具がある芝生の広場です。親子で遊びながら自然に古墳の形をイメージできる広場です。

#### (6) 親子ひろば

「考古の展示室」の建物と「歴史・民俗の展示室」の建物の間にある屋外スペースです。「考古の展示室」入口脇のウッドデッキやベンチと併せ、小さなお子様と親子でくつろげる人工芝敷きの空間です。幼児用の遊具があります。

#### (7) 駐車場・駐輪場

普通車22台(ハンディキャップ専用含む)の駐車が可能です。バスの駐車は「考古の展示室」および「歴史・民俗の展示室」の裏側への駐車可能です。(職員へご相談下さい。)  
駐輪場10台(屋根付き)の駐輪が可能です。



## 2. 組織・職員体制

(組織)

名取市教育委員会 ― 文化・スポーツ課 ― 名取市歴史民俗資料館  
(文化財係)

(体制)

館長 ― 主幹1 ― 主査2 ― 主事3 ― 会計年度任用職員2  
館長、主幹1名、主査2名、主事3名は文化財係兼務

館長	鶴崎 哲也	主幹	遠藤 裕
主査	大友 透	主査	浅野 麻衣子
主事	鈴木 舞香	主事	庄子 美祐
主事	大友 健太郎	会計年度任用職員	安孫子 礼美
会計年度任用職員	加藤 幸		

## 3. 予算

項目	予算額	備考
維持管理費	11,431,000円	職員人件費除
事業活動費	6,188,000円	

## 4. 条例・規則

### ○名取市歴史民俗資料館条例

令和元年12月27日  
名取市条例第24号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第1項の規定に基づき、名取市歴史民俗資料館(以下「資料館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 考古資料、歴史資料、民俗資料、郷土資料、埋蔵文化財等の保存及び活用を行うことにより、市民の文化の向上に資するため、資料館を設置する。(名称及び位置)

第3条 資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
名取市歴史民俗資料館	名取市増田一丁目7番37号

(業務)

第4条 資料館において、次に掲げる業務を行う。

- (1) 考古資料、歴史資料、民俗資料及び郷土資料(以下「考古資料等」という。)の収集、整理及び保管に関する事。
- (2) 考古資料等の調査及び研究に関する事。
- (3) 考古資料等の展示、利用及び普及啓発に関する事。
- (4) 埋蔵文化財に関する資料の収集、整理及び保管に関する事。
- (5) 埋蔵文化財の発掘、保全、調査及び研究に関する事。
- (6) 埋蔵文化財に関する資料の展示、利用及び普及啓発に関する事。

(7) 前各号に掲げるもののほか、資料館の設置の目的を達成するために必要な業務に関する事。

(職員)

第5条 資料館に、館長その他必要な職員を置く。

(観覧料)

第6条 資料館が展示する資料の観覧料は、無料とする。

(委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。

(令和2年教委規則第1号で令和2年4月26日から施行)

### ○名取市歴史民俗資料館条例施行規則

令和2年3月18日  
名取市教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、名取市歴史民俗資料館条例(令和元年名取市条例第24号。以下「条例」という。)

第7条の規定に基づき、条例の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 名取市歴史民俗資料館(以下「資料館」という。)の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 資料館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、休館日を変更し、又は別に休館日を定めることができる。

(1) 月曜日。ただし、月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い当該休日でない日

(2) 12月29日から翌年1月3日までの日

(入館者の遵守事項)

第4条 入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 展示物に触れないこと及び展示室でインク、墨汁等を使用しないこと。
- (2) 許可を得ないで展示物又は資料を模写し、又は撮影しないこと。
- (3) 他の入館者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、係員の指示に従うこと。

(入館の制限等)

第5条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、資料館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備器具又は展示物を損傷するおそれがあるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、資料館の管理に支障を及ぼすおそれがあるとき。

(寄贈等)

第6条 資料館に資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(所蔵資料の貸出し)

第7条 資料館に所蔵されている資料(以下この条及び次条第2項において「所蔵資料」という。)の貸出しは、行わないものとする。ただし、博物館、美術館、図書館、学校その他教育委員会が適当と認める施設において所蔵資料を展示し、又は学術上の研究、学習等に用いる場合は、この限りでない。

## 名取市飯野坂遺跡採集の弥生土器（2）

## I. 土器の概要と時期

今回は前回示し得なかった壺・甕類を報告した後、東北地方の遠賀川系土器（註1）の文様について西日本との関わりから考察する。以下、時期ごとに土器の概要について記載していく。

器種は165～213・292が壺、214～290が甕、291・293～296が壺もしくは甕と分類した。

## 1. 弥生前期末葉（十三塚東D式）

165～167・169・170は、くの字に短く外反する口縁、口唇部への沈線、区画文としての各種列点文様（第1表参照）165（沈線外列点文S・2条列点文U）・169（沈線間列点文D）・170（1条列点文T）とその施文位置および器形から前期末葉の遠賀川系壺に該当する。214は口唇部に刻目文、215は169と同じDと推定される文様の遠賀川系甕である。

## 2. 弥生中期前葉（原式）

185・186は口径が約12cmと小さいことから大洞式の系統で、口縁部がやや外反気味に立ちがり、頸部に粘土紐を張り付けて三角突帯をまわしている。186の口縁内面にはくぼみがめぐらされており、このくぼみ帯は原式の壺（第1図1・2）で盛行する技法で、2は遠賀川系壺が在地化する過程で取り入れられた事例である。188～192は細径長頸壺の口縁～頸部片で、190～192は内面にくぼみ帯をもつ（註2）。細径長頸壺は仙台平野では原式から榊形式へと継承されるが、榊形式においては組成比が減少する。193・194は同一個体の可能性がある壺肩部で、平行沈線間に波状文が施文される。196・198は文様区画内縄文の磨消工字文、199は沈線のみで描かれるいわゆる王子文。204は小型の壺で、口縁部は緩やかに外反し、なで肩の肩部から直線的に底部へと至る。口縁部内面にはくぼみ帯がめぐる。口縁外面には平行沈線間に縄文充填、肩部～体部には上下を沈線で区画し対向した三角文の間に菱形文を半単位ずらして配置する。区画内縄文が反転しているため原式新段階に位置付けられる。この器形の祖形は福島県域の前期末葉御代田式の壺に求められようか（第1図6）。208は長胴形小型壺の肩部片である。区画内縄文の磨消構成をとっており、上下の構図分割垂線を基軸として左右に方形（鉤形カ）の文様が対称形に配置されている。このような文様構成は東北地方南部、関東地方東・北部に分布する筒形土器の文様に由来すると考えられる。207・209・210は磨消縄文による幾何学文か。211は区画内縄文の磨消工字文の反転部で、三角文が上下から貫入する上部とみておく。これのネガポジが反転したものが榊形式に特徴的なX字文である。212・213は壺肩部に施文される磨消変形工字文であろう。292は底径が小さめの中型長頸壺の体部下半と推定される。

## 3. 弥生中期中葉（榊形式）

168は口縁部が直立気味に立ち上がり、端部で短く外反する大洞式系譜の壺である。このような口縁の形状は原式新段階にはその萌芽がみられるが、榊形式に至って定型化する。202～203は壺肩部に磨消縄文による同心円文もしくは渦巻文が施文されている。

## 4. 弥生前期末葉～中期中葉の時期幅のもの

小破片で文様構成がわからないものや型式変化に乏しい単純な器形・文様を持つものなどを、以下の3つの時期幅にまとめた。

## （1）弥生前期末葉～中期前葉

180は体部に区画沈線文をもつ遠賀川系壺である。182は肩部破片で、調整・施文は粗いハケメ（条痕状）→縄文LR→粗いミガキの手順をとる。横位ミガキ帯の幅は3cmで、縄文と磨消部の段差は不明瞭である。187は深鉢の可能性もある口縁部の破片で、小波状口縁の頂部には刻み目が施されている。195は中型壺の肩部片で、縄文地に変形工字文を磨消浮帯文で描く。磨消部が深く縄文との段差は明瞭である（註3）。200は直立する口縁をもつ大洞系の小型壺である。頸部と体部に区画沈線文を施し、その間に

2 前項ただし書の規定により所蔵資料の貸出しを受けようとするものは、所蔵資料貸出承認申請書を教育委員会に提出し、その承認を受けなければならない。この場合において、貸出しを受ける所蔵資料が寄託物であるときは、寄託者の承諾書を併せて提出しなければならない。

3 第1項ただし書に規定する場合における所蔵資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

（損傷等の届出）

第8条 資料館の施設、設備器具、展示物等を損傷し、又は亡失させた者は、直ちに係員に届け出て、その指示に従わなければならない。

2 前項の規定は、所蔵資料（前条第2項の承認を受けることにより貸し出されたものに限る。）を損傷し、又は亡失させた者について準用する。

（委任）

第9条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、条例の施行の日から施行する。

## 5. 沿革

平成29年12月 （仮称）名取市歴民民俗資料館 基本計画策定

平成30年3月 （仮称）名取市歴民民俗資料館 基本設計

平成31年3月 （仮称）名取市歴民民俗資料館 実施設計

令和元年7月 （仮称）名取市歴民民俗資料館整備工事着手（竣工 令和2年5月15日）

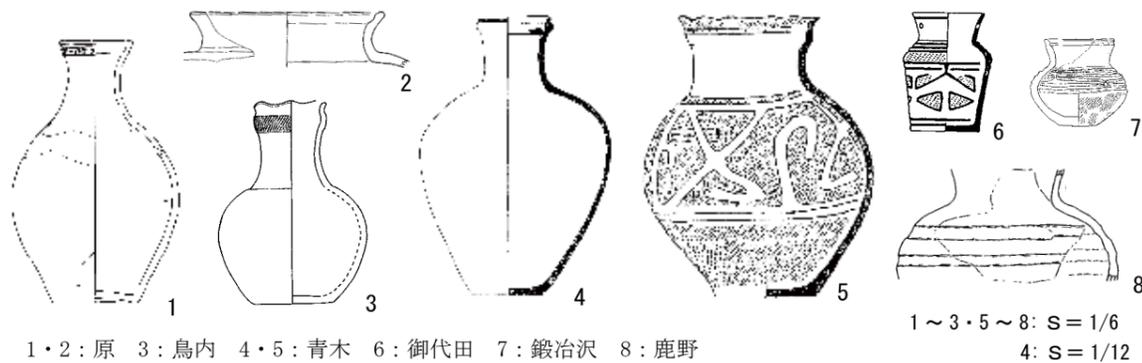
令和2年2月 名取市歴史民俗資料館条例制定

令和2年2月 名取市歴史民俗資料館条例施行規則制定

令和2年5月 名取市歴史民俗資料館開館（31日）

令和3年8月 来館者1万人達成（7日）

令和3年10月 ボランティア会「れきみんの会」設立（11日）



第1図 参考・引用土器実測図

2段の半楕円文を半単位ずらして配置する。本例は204よりは古相を呈するが、第1図7の肩部に変形工字文を描く蔵王町鍛冶沢遺跡出土の同形壺よりは新しい時期か。201は区画内縄文の曲線状文様である。205・206は同一個体と思われる中型壺の肩部片である。文様は区画内縄文の磨消縄文で、205の三角文は対称形の配置と推定されるが、異なる方形組み合わせの文様(206)も配列しているようである。そうすると全体の構図としては、非対称の幾何学形となろうか。磨消三角文は前期末葉には出現しているが、幾何学文やヒトデ文が盛行するのは福島県域を含めても中期前葉の時期である。216・217・218・222の遠賀川系甕にみられる列点文O・Uは、十三塚遺跡や原遺跡で確認できることからこの時期幅におさまる。218は異なる形状の列点文を配置する特異な例である。

## (2) 弥生中期前葉～中期中葉

183は壺体部上半がミガキによる無文で、下半には縄文が施文されている。このような文様構成は、遠賀川系壺で体部を区画していた沈線が省略されたものと考えられており(石川2009)、原式で出現し椀形式で盛行する。197は小型壺の肩部で、区画外縄文の磨消工字文。原式新段階～椀形式に位置付けられる。

## (3) 弥生前期末葉～中期中葉

171～179・181は遠賀川系もしくはその系譜をひく壺の頸部に区画沈線文がみられるもの。219～221・223～290は口縁部如意形の遠賀川系甕である。頸部の文様には、1条列点文T、1～3条の平行沈線文、原体圧痕文(285)、無文がある。口唇部には縄文が施文されるものとされないものがあり、体部は288(ハケメ調整痕)を除いて原則として縄文が施文される。調整は口縁部外面がヨコナデ、内面がミガキで、外面の体部上端に縄文施文後にハケメを部分的に施すもの(221・230・260・282・287)もある。また、252の列点には塗膜が認められた。291・293～296は壺もしくは甕の体部～底部の破片である。

## 5. その他の時期

わずかではあるが、2・3本同時施文具で文様を描く弥生中期後葉の十三塚式(297～301)の破片も含まれていた。302～304は縄文時代後期前葉～中葉の深鉢であろう。305・307は古墳時代前期の土師器(塩釜式)で、前者は台付甕の台、後者は高坏の中実脚になる。306は非ロクロ調整の土師器甕である。

## II. 考察

飯野坂遺跡の遠賀川系土器は、隣接する十三塚遺跡のもの(恵美1979 福山1995 相澤2022)とともに先行研究では度々取り上げられる仙台平野の標準となる資料である(第2図10・11)。今回は、その属性のうち列点文様にしばって検討をおこなうが、その前に本論に關係する該種土器の研究史について簡潔にまとめておく。

佐原眞(1987a・b)は、東北地方の遠賀川系土器が第I様式中段階の特徴を持っているとの見解を披瀝した。その中で東北地方の遠賀川系土器の認定条件として10項目を挙げているが、その1つとして沈線間列点文Aをとりあげており、遠賀川式中段階ころに西日本各地にみられ、木目列点文は日本海沿岸の島根・鳥取・京都の遠賀川式中段階に特徴的な存在とした。東北地方の遠賀川系土器は、将来的に何段階かに細別されるとし、新旧の時期差が認められることも指摘する。これに対して鈴木正博(1987a・b)は、

佐原が遠賀川式の要素として抽出した属性は、すべて亀ヶ岡式系の伝統から成立したものと反論している。谷口肇(1989)・設楽博己(1991)・林謙作(1993)は、遠賀川系土器が伝播したのは中段階の小条沈線の時期に限られ、新段階には交渉を持たなかったため在地において独自の型式変化を重ねたとする。

広域編年上の視点からは、遠賀川系土器が伴う砂沢式と西日本前期弥生土器との併行關係の検討おこなわれ、砂沢式＝新段階が提唱されると多くの研究者の支持を得るようになる(鈴木1987a・b 小林1999 高瀬2000 設楽2014 小林2018)。その裏付けとして馬淵川・新井田川流域に分布する最古期の遠賀川系土器は、堅穴住居跡等での在地系土器との共伴關係から縄文時代晩期末葉大洞A'式(中段階併行)に伴うものとする理解が進む(斎野2011 根岸2020)。一方で、櫻井はるえ(2009)は剣吉荒町遺跡等の遠賀川系土器壺に中段階の特徴(段・削出突帯)を認め砂沢式と伴出することから、中段階と砂沢式が併行するとし、古手の資料は確実に大洞A'式に伴うとは言えないとした。ただし、この編年案は砂沢式が新段階まで下ることを証明するものではないとしている。

伝播のあり方については、東山道ルート(註4)や日本海ルート(伊東1985)が考えられてきたが、東北北部については後者が重要視されている。しかし、その伝わり方や拡散の仕方については、以下のような解釈がなされており一致を見ていない。設楽博己(1991)・高瀬克範(2000)は、遠賀川式要素の変容が小さい該種土器が分布する馬淵川・新井田川流域を起点として他の地域へと拡散していったとする説をとっている。それに対して佐藤由紀男(2003)は、東北地方から西日本(山陰地方、関門地域)へ派遣された人達があり、それらの人達が水稻耕作技術とともに遠賀川式土器の情報をそれぞれの地域に不完全なカタチでもたらしたとする。また、根岸洋(2020)は一箇所を起点とする二次波及モデルよりも、受容のあり方についての地域性を重視すべきと論じている。木村早苗(2000)は青森県の遠賀川系土器(壺・甕)を考察する中で、馬淵川・新井田川流域に対して津軽平野のものは、沈線の条数が多く列点文様のバリエーションが豊富なことを指摘して、この様相の違いを新旧の時間差を示すものと想定した。さらに、推測の域を出ないとしながらも遠賀川式土器の伝播そのものにも時間差が存在したことを述べている。斎野裕彦(2011)は東北北部の遠賀川系壺が前期後葉～末葉の東北九州・瀬戸内地方の遠賀川式壺と複数の器形で類似し、区画文様施文の変化も同期するとしている。

それでは以上の先行研究をふまえて、遠賀川式・遠賀川系土器の属性の1つである列点文様について考察する。第1表には前期末葉から中期前葉に確認できた文様の類型と遺跡名を北から地域毎に示したが、数の多寡はあらかわしていない。A～Jが沈線間列点文、K～Sが沈線外列点文、Tが1条列点文、Uが2条列点文で、壺と甕に区分けした。主要な分布域は、①が馬淵川・新井田川流域、②が津軽平野、③が牡鹿半島・雄物川流域、④が庄内平野、⑤が仙台平野、⑥が阿武隈川流域、⑦が東北南部太平洋沿岸部として以下では表記していく。

A・Cはほぼ東北地方全域に分布するといつてよいが、Aは壺・甕双方に取り入れられ、Cは壺に多く甕は③・④のみで確認される。F～Jは①～③の東北北部や④の庄内平野に分布しそれ以南は希薄である。K～Nは②～③にまとまって分布するが、飛び地的にKが①の馬淵川・新井田川流域、Lが⑤の仙台平野、M・Nが北上川上流域で確認される。K・Lは壺形に限られる。O～Sは仙台平野以南の地域を主要な分布圏とする甕主体の文様である。Tはそのほとんどが甕に用いられており、仙台平野を中心として北は鳴瀬川流域、東は松島湾沿岸、西は最上川中流域、南は阿武隈川下流域、いわき地方に分布し、飛び地的に②でも確認できる。UはTとは異なり①(3条含む)・②では壺に、仙台平野以南では甕に多く取り入れられている。以上、列点文の類型と分布についてまとめてみると、おおきくはA・C・I・Jで構成される①・④地域、A・C・K～Nの②・③地域、A・C・O～Tの⑤・⑥・⑦地域の3地域に区分される。

これら列点文が施文される遠賀川系土器の時期は、在地系土器との共伴關係からみていくと、①で縄文晩期末(大洞A'式)のAが最も古く(註5)、前期末葉には東北地方全域でA・C・Uが確認される。①-1～6・④の遺跡では、A・C・I・Jのまとまりがあり、④では前期末葉砂沢式古段階併行の在地系土器が伴出する。②・③の地域でまとまるK～Nは、宇田野(2)・新沢(1)遺跡では砂沢式新段階に伴い(大坂2012 根岸2020)、中期前葉の館の上の一部(第2図5)・大倉・横長根A遺跡まで継続する。前期末葉は基本的に3条の沈線と組み合わせるが、地蔵田B遺跡では4条も出現し(第1図7)、中期前葉で

第1表 東北地方の遠賀川系土器列点文様の類型と分布（前期末葉～中期前葉）

文様類型	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	
	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕	壺	甕
1 ○是川中居	●	●	●							●	●											●
2 ○荒谷	●																					
3 ○畑内	●	●									●											
4 ○櫛館	●	●																				
5 ○剣吉荒町	●	●									●											
6 ○沢堀込									●													
7 □田向冷水											●											
8 ○金田一川	●																					
9 □中穴牛								●														
10 ○砂沢	▲	●												▲	●							
11 ○宇田野(2)	●	●				●						●			●							●
12 ○五輪野		●																				●
13 ○新沢(1)			●											●								
14 □五所																			●			●
15 △地藏田B	●	●	●						●	■	●		●	●	●	●						
16 □湯ノ沢A												●										
17 ○東飛塚館跡												●										
18 △館の上								●			●		●	●	●	●						
19 □大倉												●	●	●	●	●						
20 □横長根A	●										●	●	●	●	●	●						●
21 ○大渡野													●	●	●	●						
22 ○生石2	●	●	●	●							●	●			▲							
23 ○上竹野	●																					●
24 □小田島城跡																●						●
25 △鳴瀬川流域遺跡群																	●					●
26 ○十三塚	●															●	●		▲	●	●	●
27 ○野来													●									●
28 △飯野坂			●	▲											●					●	●	●
29 ○西野田																●					●	●
30 □原															●				●	●	●	●
31 □船渡前																●				●	●	●
32 △高田B	●	●														●				●	●	●
33 □東宮貝塚																					●	●
34 △福浦島貝塚																					●	●
35 □里浜貝塚																▲					●	●
36 △寺下貝塚																			●		●	●
37 △鱸沼	●																				●	●
38 □中筋																					●	●
39 ○根古屋	●																					●
40 □孫六橋																						●
41 ○鳥内			●															●		●	●	●
42 □岩下A															●					●	●	●
43 □紫迫A																						●
44 ○成田藤堂塚																				●		●
45 ○作B	●	●																				●
46 ○砂畑	●		●		●													●				●
47 □龍門寺																						●

①1～9：馬淵川・新井田川流域 ②10～14：津軽平野 ③15～20：牡鹿半島・雄物川流域 21：北上川上流域 ④22：庄内平野  
23：最上川中流域 24：上山盆地 25：鳴瀬川中流域 ⑤26～32：仙台平野 33～36：松島湾沿岸域 ⑥37・39～41：阿武隈川流域  
⑦38・42～47：東北部太平洋沿岸部（45～47はいわき地方）

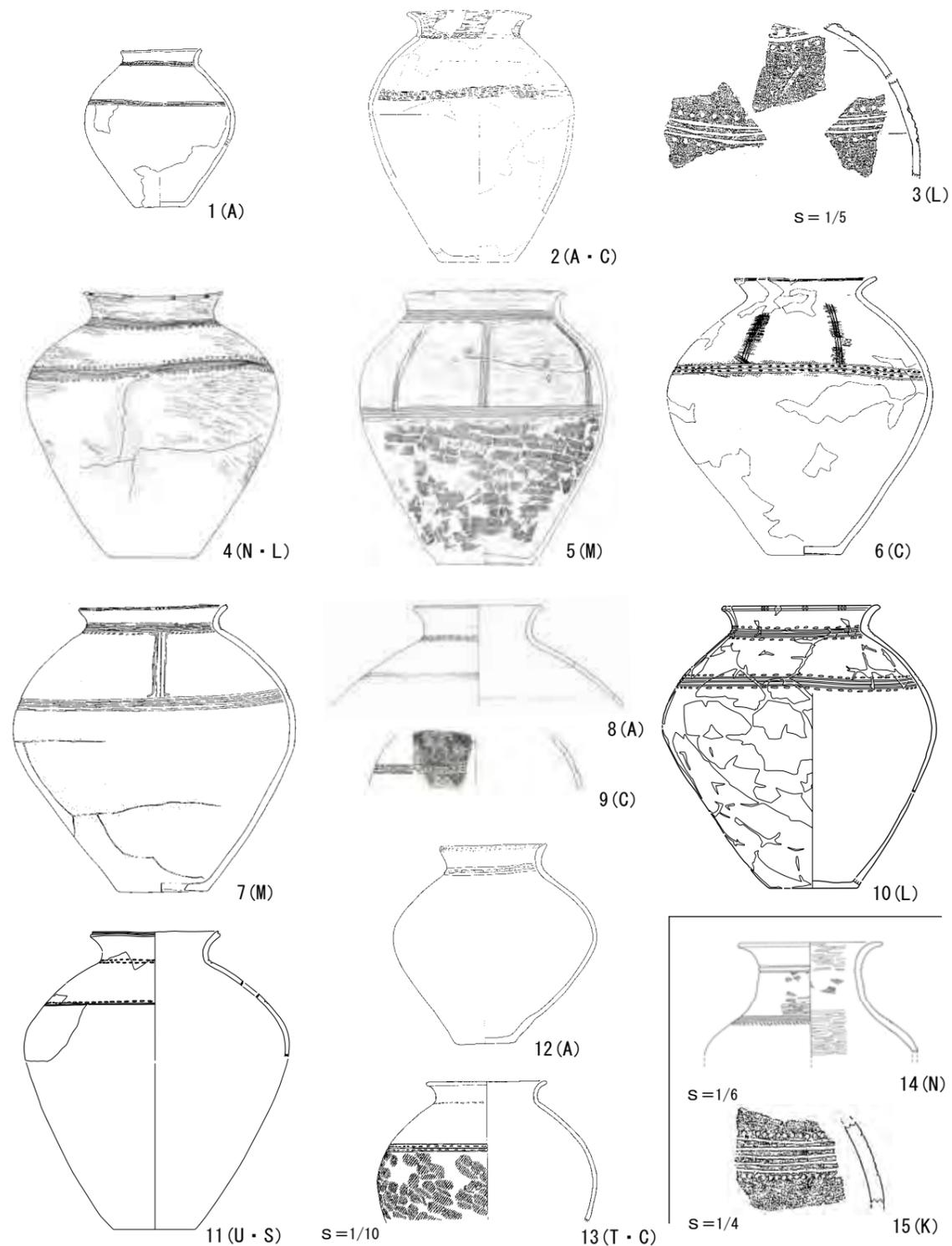
※ ○：前期末葉 □：中期前葉 △：前期末葉～中期前葉

▲は破片のため確定できないもの

■は深鉢

は4～5条と条数が増える。⑤の十三塚遺跡の壺L（第2図10：十三塚東D式）は、口唇部に2～3単位の刻目文が施文されるなど、③の東飛塚館跡例（第2図4）と共有性をもつ。また、時期的にも十三塚東D式は、青木畑式を介して砂沢式新段階に併行するので、宇田野（2）遺跡の壺L（第2図3）の時期とも整合する。O～Sは前期末葉には初現があり中期前葉まで継続する。Tは十三塚（第3図10）・作B遺跡例からすると前期末葉には出現しており、この如意形甕は中期後葉まで東北中・南部の煮炊具の定型となった。Uは前期末葉から中期前葉まで継続する地域②・⑤・⑥としない地域①・⑦がある。

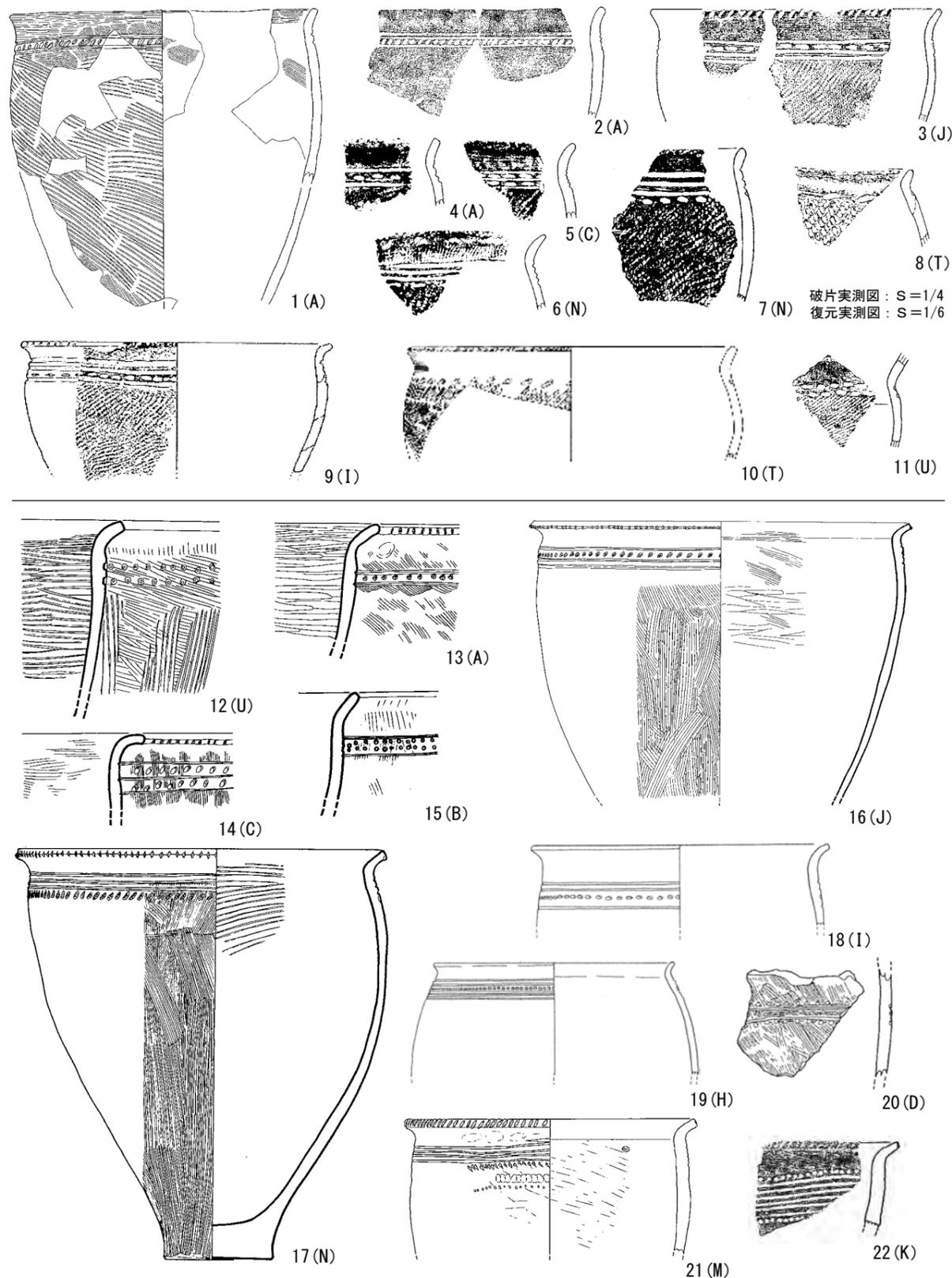
遠賀川式土器における沈線間列点文（A）は、ヘラ描き沈線文に比べてそれほど出現頻度は高くないが定型的な文様として壺・甕に採用されている（註6）。西日本の該期諸型式においては、地域によっては



1: 剣吉荒町 2: 是川中居 3: 宇田野(2) 4: 東飛塚館跡 5: 館の上 6・7: 地藏田B 8・9: 生石2  
10: 十三塚 11: 飯野坂 12: 根古屋 13: 鳥内 14: タテチョウ 15: 西川津

第2図 東北地方と山陰地方の列点文土器（壺）

前期古段階から見られはじめ、中段階に盛行することが知られている。Aが遠賀川式の系譜にあることは、大方の研究者が認めているところであるが（註7）、今回取り上げているその他のタイプについては、各々の在地で変容したものか、あるいは外来的要素（遠賀川式要素）なのか検討されたことはない。そこ



1, 2: 是川中居 3: 剣吉荒町 3~6: 地蔵田B 7: 砂沢 8: 宇田野 (2) 9: 生石2 10: 十三塚  
11: 作B 12~17: 綾羅木郷 18~19: タテチョウ 20: 矢野 21: 西川津 22: 三田谷 I

第3図 東北地方と山陰・関門地方の列点文土器 (甕)

で、従来関連が注目されてきた近畿北部・山陰・関門地方のうち、とりわけ列点文様のバリエーションが豊富で資料数が多い出雲・関門地方で該種文様を検索してみた。その結果、合致した文様としては、A (第3図13) B (同15)・C (同14)・D (同20)・E (矢野遺跡: 坂本 2010)・H (同19)・I (同18) J (同16)・K (第2図15・第3図22)・M (第3図21)・N (第2図14・第3図17)・T (長瀬高浜遺跡: 鳥取県教育文化財団 1982)・U (第3図12) の13タイプが前期古段階~新段階の時期に見いだされた。下関市綾羅木郷遺跡 (伊東 1991) では、新段階の土坑 (L.N 5603) からA・C・J・U (第3図12~14・16) が、同時期の土坑 (L.N 60) からはN (第3図17) が出土し、L.N 5411 土坑ではA・H・M が共伴する。この遺跡全体ではA・B (L.N 5305)・C・H・J・M・N・U の8タイプが東北地方と一致している。また、前期末葉高槻式の標式遺跡である北九州市高槻遺跡 (木太 2000) でもA・C・H・M・O が確認されている。

このなかでM・Nの文様構成に類するものは、前期新段階~中期初頭の中国・四国地方を主に分布している。数条のへら描き沈線文下に列点文を1条配するもので (第1図14、第2図17・21)、地域によって条数が異なり瀬戸内・四国地方は多条であるが、山陰・関門地方は条数が少ない傾向にある (註8)。このMタイプは出現頻度が高いが、Kタイプは希少であることからすると、KはMの派生形として生成された可能性が高い。Kタイプは新段階でも後半の瀬戸内海沿岸の岡山市百間川沢田遺跡 (井上ほか 1993)、今治市阿方遺跡 (今泉ほか 2000)、松山市久米高畑遺跡 (沢田ほか 1991)、出雲地方の松江西市川津遺跡 (第2図15)、出雲市三田谷 I 遺跡 (第3図22) に例があり、東北地方と同様に壺に用いられることが多い。

以上の列点文様のあり方から見ると、東北地方と山陰・関門・東北部九州地方では複数の類型を共有し施文形状も類似している (註9) ことがわかる。東北地方に分布する該種文様は、在地の大洞系土器からこれだけ多様な類型が導出されたとは考えにくく、在地においてAから型式変化を遂げたものもあるかもしれないが、多くは山陰・関門・東北部九州地方 (註10) を起源とする外来系の文様と察せられる。

山陰地方 (出雲地域) での該種文様の出現と展開は、古段階の矢野遺跡 S D 2626 (坂本 2010) ではA・Cタイプに加えてE・Uタイプもみられることから、すでにこの時期から変容形が出現している。中段階の西川津遺跡 S D 10 (原田 2013) では3段のAタイプやHタイプがみられるなどより変容が進行しており、新段階にはバリエーションが最も豊富になる。このような山陰地方での列点文様の様相からすれば、中段階併行の大洞A'式期でも多種類の類型が東北地方でも模倣されてもおかしくないことになるが、現状では壺のAのみである。新段階併行の砂沢式期では先に述べた通り、地域によって類型構成が異なっており、この時期に多様な類型がもたらされた。このようなあり方はそれぞれの地域で限定的・選択的な受容 (佐藤 2003 安藤 2009) がなされたからで、伝播した時期の時間差も含んでいると考えられる (註11)。こういった見方に立てば、東北地方と西日本との接触・交流は一過性の一時的なものではなく、相応の期間継続していた蓋然性が高いのではないだろうか。

他方では、地域間で飛び地的に共有する文様もあることやこの時期の砂沢式・砂沢系土器の南下拡散現象もふまれば、地域間同士あるいは東北地方全体を結ぶネットワークも存在していたと考えられ、その実態は複雑である。限定的・選択的な受容は大陸系磨製石器にも言えるようで、杉山浩平 (2005) は新井田川・馬淵川流域と仙台平野では導入時期や器種構成に大きなヒアタスがあるとし、それぞれの地域が西日本と接触のうえで受容が行われたとする。近年では東北地方の木製農具は山陰・近畿地方 (鶴来 2020)、東北部九州地方 (斎野 2022)、大陸系磨製石器は北部九州地方 (森 2021)・東北部九州地方 (斎野 2011) との共通点が指摘されている。これらの論考では西日本との直接的な交渉が説かれているが、中継 (経由) 地の存在は留意すべき問題提起である (鈴木 1988 佐藤 2021)。東北地方へ水稻農耕技術をもたらした故地の究明は大きな命題であり、今後は本稿での仮説を含めて個別に導かれた多様な系譜の連関性をつきとめ、より詳細な地域の特定につながる研究を期待して擱筆する。

#### 【謝辞】

本報告をまとめるにあたっては、下記の方々よりご教示、ご協力をいただいた。末筆ながら記して感謝申し上げます。

石川日出志、宇部則保、太田昭夫、木村 高、日下和寿、斎野裕彦、佐藤信行、佐藤祐輔、佐藤由紀男  
 本稿の執筆・編集は、名取市教育委員会文化・スポーツ課文化財係の相澤清利、遺物資料整理は佐藤友希が、遺物写真撮影は平塚景子が担当した。

遠賀川式土器

註1　該種土器の呼称については、北奥遠賀川系土器（鈴木 1987a）、類遠賀川系土器（高瀬 2000）などが提案されているが、ここでは西日本前期弥生土器を遠賀川式土器（小林 1959）と総称し、東北地方で遠賀川式土器の属性を模倣し在地で製作した土器ついて遠賀川系土器と呼ぶこととする。

註2　口縁内面にくぼみをめぐらす壺は、東北中・南部では福島県鳥内遺跡 19 号墓（第 1 図 3）、同宮崎遺跡 P 27、山形県上竹野遺跡 S F 60 などや関東地方東・北部で確認されており、おそくとも中期初頭には出現しているようである。仙台平野の該種土器は、阿武隈川下流域周辺の白石市青木遺跡の壺でみるように（第 1 図 4・5）、直接的にはこの地域を経由してもたらされたと考えられる。また、松島湾沿岸域の寺下式では多器種で特徴的に採用されており、仙台平野からの影響がみてとれる。

註3　磨消浮帯文は石川日出志（2003　2005b）が提唱したもので、磨消部が深く浮帯部との段差が明瞭な A と段差が不明瞭で広義の磨消縄文から沈線を省略した B に分類している。この分類からすると 195 は A に相当する。宮城県域では前期末葉の柴田町鹿野遺跡の壺（第 1 図 8：石川 2005b）、中期前葉の仙台市高田 B 遺跡の細径長頸壺（報文：pp. 66　第 66 図 5）に例がある。なお、182 は文様帯とするには幅が広いため、磨消浮帯文かどうかは不明である。

註4　東北地方で唯一遠賀川式土器の搬入品とされているのが福島県三島町荒屋敷遺跡出土の中段階併行の壺である（小柴ほか 1987）。この土器の搬入ルートは伊勢湾周辺から関東地方西部を経由する東山道ルートで伝播したと考えられている（設楽 1991）。高瀬（2000）は東北地方の遠賀川系土器はこのような搬入品をモデルとして模倣が始まったとする。

註5　馬淵川・新井田川流域の大日向Ⅱ遺跡 S X 001（田鎖 1995）、畑内遺跡 53 号住居跡（木村ほか 1997）、剣吉荒町遺跡 4 号住居跡（業天ほか 2015）では、遠賀川系壺と大洞 A´式が共伴しており、このうち前 2 者出土の壺には A が施文されている。今のところ事例が少ないので慎重であらねばならないが、伝播当初は A のみに限定されていた可能性が高い。

註6　深沢芳樹（2000）によれば遠賀川式土器甕の頸部文様は、刻目段→直線文刻目段→両直線文間刻目（沈線間列点文 A）という型式変化をとげるという。両直線文間刻目は、福岡県板付遺跡から青森県是川中居遺跡にわたって分布するとしている。

註7　これに対して鈴木正博（2000）は、大洞式土器にみられる「溝底の刺突」が淵源とする。

註8　遠賀川式壺・甕の主要な文様はへら描き沈線文であるが、西日本の傾向として甕では 1 条から始まり、新しくなるにつれて多条化していき前期末葉には 6 条以上のものもあらわれるという。こうした流れにあって山陰地方は新段階に入っても多条化が進行せず（ 3～5 条が主体）、小条沈線が長く併存したとの指摘がなされており（岩本 2021）、関門・東北部九州地方も同様な傾向が認められる。

註9　列点の施文形状でも遠賀川式土器、東北地方の遠賀川系土器は、㊶横長、㊷縦長（やや右傾）、㊸円形を共有している。東北地方地方では㊶は全域に分布するが、㊷が㊶・㊸地域に限定される点は注目される。㊸は事例が少ないが散発的に確認できる。

註10 田畑直彦（2021）が設定する綾羅木式・高槻式コア分布圏・周縁分布圏、山陰型綾羅木・高槻系分布圏にほぼ相当する。

註11 研究史で取り上げた木村の指摘は、今回の分析でより明確になったと思われる。馬淵川・新井田川流域と津軽平野、牡鹿半島・雄物川流域では、比較的近い地理的環境にあるのにかかわらず列点文様の構成に違いが認められた。このような相違は地域差であることは間違いないが、時間差が係わっているのかということである。詳細は先に述べた通りで、沈線外列点文（K～S）を文様構成に含む地域・遺跡は、前期末葉（砂沢式併行期）の時間幅のなかでも新しい傾向がみられる。また、A・C と K～N は、管見の限りでは同一個体内（壺）で共存することはないので、これも系統・系譜の違いや時期差の証左となろう。牡鹿半島・雄物川流域で中期前葉までに L・N から K・M への型式変化を遂げている点も、西日本と連動した可能性を考慮しておくべきか。

遠賀川式土器

【参考・引用文献】

相澤清利　2011「飯野坂遺跡出土の弥生土器について」『郷土なとり』25 周年記念号　名取市郷土史研究会

相澤清利　2022「名取市十三塚遺跡出土の遠賀川系壺再報告」『名取市歴史民俗資料館年報－令和 3 年度－』

相澤清利・飯塚義之　2022「名取市十三塚・飯野坂遺跡出土の勾玉・管玉について」『名取市歴史民俗資料館年報－令和 3 年度－』

相澤清利　2023「名取市飯野坂遺跡採集の弥生土器（1）」『名取市歴史民俗資料館年報－令和 4 年度－』

会田容弘　1998『里浜貝塚－平成 9 年度発掘調査概報－』鳴瀬町文化財調査報告書 3

相原康二　1979「大渡野遺跡」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』岩手県文化財調査報告書 32

荒井 格・赤澤靖章　2000『高田 B 遺跡』仙台市文化財調査報告書 242

安部 実ほか　1987『生石 2 遺跡発掘調査報告書（3）』山形県埋蔵文化財報告書 117

安藤広道編　2009『東日本先史時代土器編年における標識資料・基準資料の基礎的研究』慶応義塾大学文学部民族学考古学研究室

石川日出志　2003「福島市孫六橋遺跡出土弥生土器の再検討」『福島考古』第 44 号

石川日出志　2005a「仙台平野における弥生中期土器編年の再検討」『関東・東北弥生土器と北海道縄文土器の広域編年』

石川日出志　2005b「縄文晩期の彫刻手法から弥生土器の磨消縄文へ」『地域と文化の考古学Ⅰ』

猪狩忠雄ほか　1985『龍門寺遺跡－重要幹線街路事業に伴う調査－』いわき市埋蔵文化財調査報告 11

猪狩みち子ほか　2002『荒田目条里制遺構・砂畑遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告 84

伊藤玄三　1960「宮城県青木の弥生式遺跡と出土土器」『東北考古学』第 1 号　東北考古学会

伊藤玄三　1979「東北・弥生文化各説」『新版考古学講座　4 原始文化（上）弥生文化』雄山閣

伊藤玄三　1993「仙台市西台畑弥生時代墳墓の再検討」『法政考古学第 20 集記念論集』法政考古学会

伊東照雄編　1981『綾羅木郷遺跡Ⅰ』下関市教育委員会

伊東信雄　1985「東北地方における稲作農耕の成立」『日本史の黎明』八幡一郎先生頌寿記念考古学論集

稲村圭一ほか　2002「柴迫 A 遺跡・柴迫古墳群」『一般国道 6 号相馬バイパス遺跡発掘調査報告』福島県文化財調査報告書 403

岩本真実　2021「出雲地域平野部における弥生時代前半期の土器様相」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集 25

宇部則保　1981『是川中居・堀田遺跡発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書 5

梅木謙一　2003「中国・四国地方の土器」『考古資料大観』第 1 巻　弥生・古墳時代　土器Ⅰ　小学館

梅宮 茂ほか　1986『霊山根古屋遺跡の研究－福島県霊山町根古屋における再葬墓群－』霊山根古屋遺跡調査団

恵美昌之　1979『十三塚遺跡－昭和 53 年度遺構確認調査報告－』名取市文化財調査報告書 6

大坂 拓　2012「本州島東北部における初期弥生土器の成立過程－大洞 A 式土器の再検討と「特殊工字文土器群」の提唱－」『江豚沢Ⅰ』江豚沢遺跡調査グループ

太田昭夫　1979「宮城県名取市十三塚遺跡出土の弥生土器」『靱』創刊号　弥生時代研究会

太田昭夫　1988「宮城県における弥生式土器編年について」『東北地方の弥生式土器編年について』縄文文化検討会

大友 透・福山宗志　1997『原遺跡－県道名取村田線改良工事関係発掘調査報告書－』名取市文化財調査報告書 38

大友 透ほか　2000『原遺跡－カインズホーム名取店建設用地関係発掘調査報告書－』名取市文化財調査報告書 44

大友 透・鶴崎哲也　2002『原遺跡－ダイエー名取店建設用地関係発掘調査報告書－』名取市文化財調査報告書 48

岡田康博ほか　2009「宮城県室浜貝塚資料 / 宮城県福浦島貝塚資料 / 宮城県橋本囲貝塚資料」『山内清男考古資料 17』奈良文化財研究所史料 84

小田川哲彦ほか　2003『檜館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 342

小保内裕之ほか　2006『田向冷水遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書 113

川合 忍　2015「各地の弥生土器及び並行期土器群の研究　中国・四国」『弥生土器』考古調査ハンドブック 12　ニューサイエンス社

利部 修　2000『館の上遺跡』秋田県文化財調査報告書 298

葛西 励ほか　1983『五輪野遺跡発掘調査報告書』調査報告 4（考古－4）　尾上町教育委員会

木太久守編　2000『高槻遺跡第 9 地点』北九州市埋蔵文化財調査報告書 242

木村早苗　2000「青森県出土の「遠賀川系土器」」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会

木村鉄次郎ほか　1997『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書 211

木村鉄次郎ほか　1999『畑内遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書 262

木村鉄次郎ほか　2000『畑内遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書 276

業天唯正ほか　2015『剣吉荒町遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 558

日下和寿　2007「宮戸島里浜貝塚より発見せられた弥生土器」『考古論叢』須藤隆先生退官記念論集

工藤 大ほか　1992『沢堀込遺跡発掘調査報告書－八戸平原開拓建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－』青森県埋蔵文化財調査報告書 144

小柴吉男ほか　1990『荒屋敷遺跡Ⅱ』三島町文化財報告 10

工藤竹久ほか　1986「是川中居遺跡出土の縄文時代晩期終末期から弥生時代の土器」『八戸市博物館研究紀要』 2

児玉 準　1984『横長根 A 遺跡－秋田県南秋田郡若美町横長根 A 遺跡の調査報告－』若美町教育委員会

児玉 準　1987「男鹿市大倉遺跡出土の弥生時代遺物について」『研究紀要』 2　秋田県埋蔵文化財調査センター

小林圭一　2018「亀ヶ岡式土器とその年代観」『亀ヶ岡文化論の再構築』季刊考古学 別冊 25　雄山閣

小林青樹編　1999「縄文・弥生移行期の東日本系土器」『考古資料集 9』国立歴史民俗博物館

小林行雄　1959「おんががわしきどき」『図解日本考古学辞典』東京創元社

斎野裕彦　2008「弥生集落の諸相①仙台平野」『弥生時代の考古学 8－集落からよむ弥生社会－』同成社

斎野裕彦　2011「弥生文化の地域的様相と発展 10 東北地域」『日本の考古学　弥生時代 5』青木書店

斎野裕彦　2022「東北地方の弥生文化からみた中里遺跡」『南関東の弥生文化』吉川弘文館

齋藤瑞徳　2016「東北「遠賀川系土器」再論」『人文科学研究』138　新潟大学人文学部

坂本豊治編　2010『矢野遺跡（第 1～第 4 分冊）－新内藤川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』出雲市教育委員会

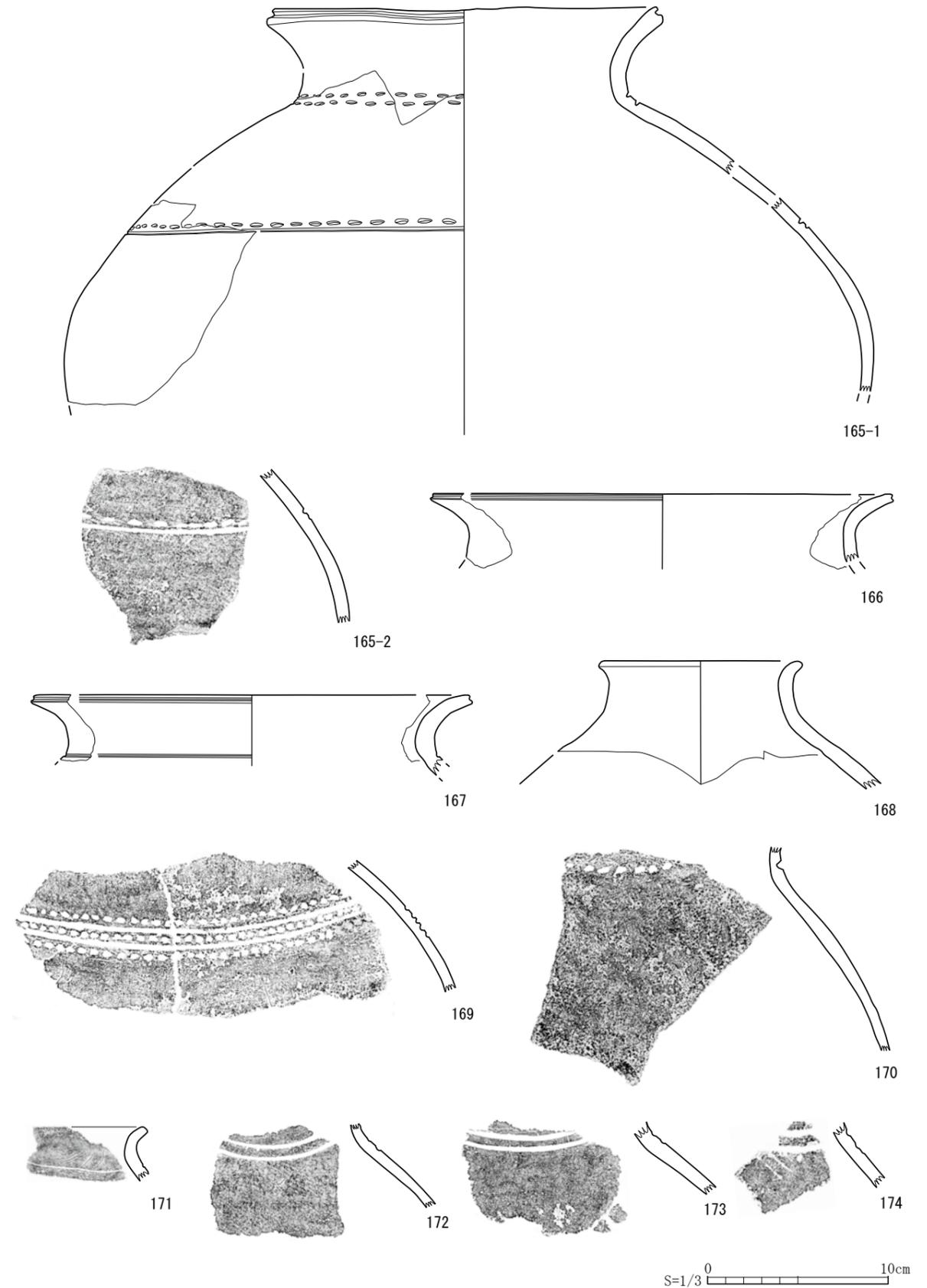
櫻井はるえ　2009「剣吉荒町遺跡出土の類遠賀川系土器について」『東日本先史時代土器編年における標識資料・基準資料の基礎的研究』慶応義塾大学文学部民族学考古学研究室

佐藤由紀男　2003「本州北部出土の『遠賀川系的要素を持つ土器群』について」『みずほ』38　大和弥生文化の会

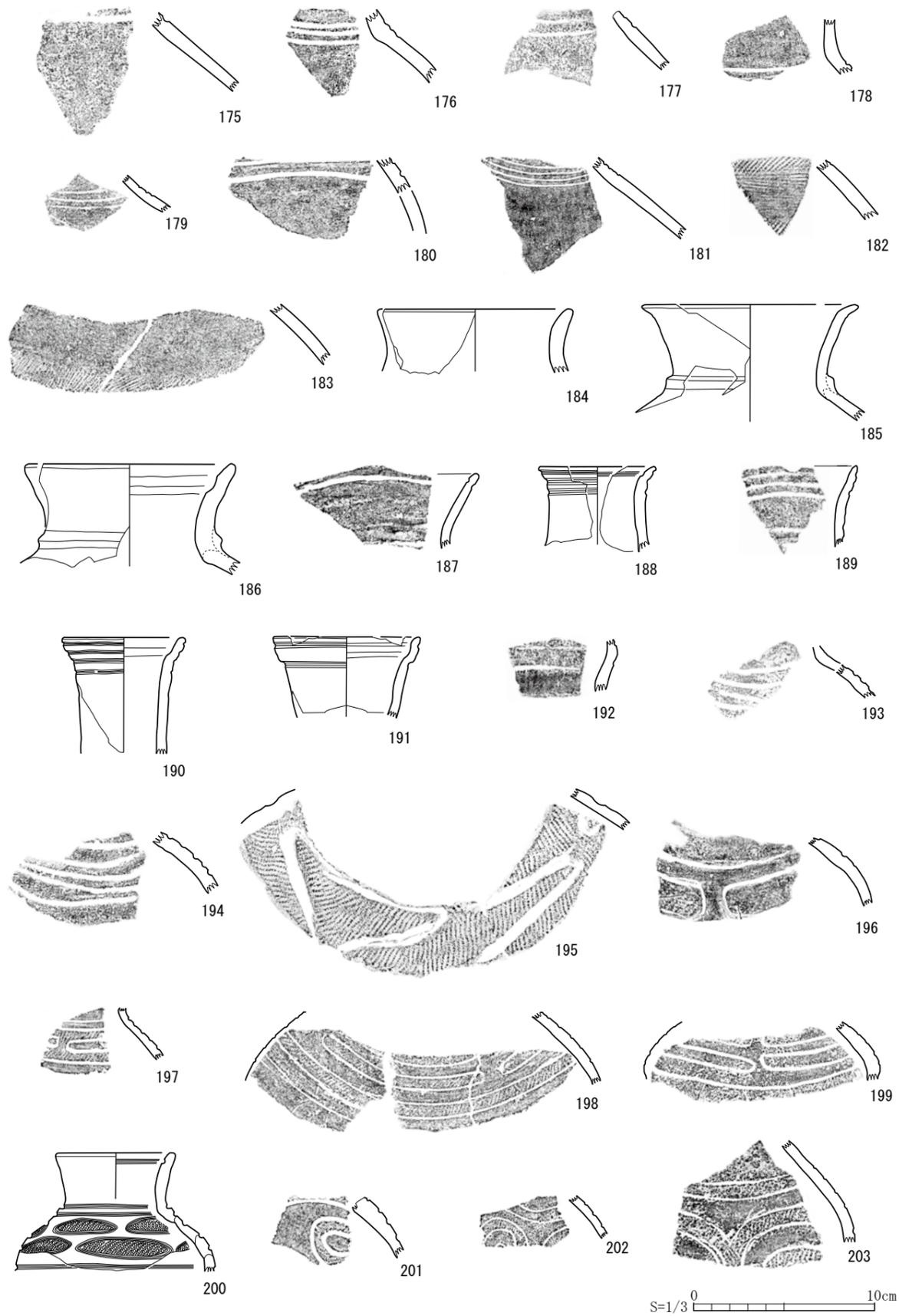
佐藤由紀男　2021「東北北部における弥生時代の磨製石斧の系譜からみた地域間交流」『地域と考古学Ⅱ』向坂綱二先生米寿記念論集

佐藤祐輔　2015「各地の弥生土器及び並行期土器群の研究　東北」『弥生土器』考古調査ハンドブック 12　ニューサイエンス社

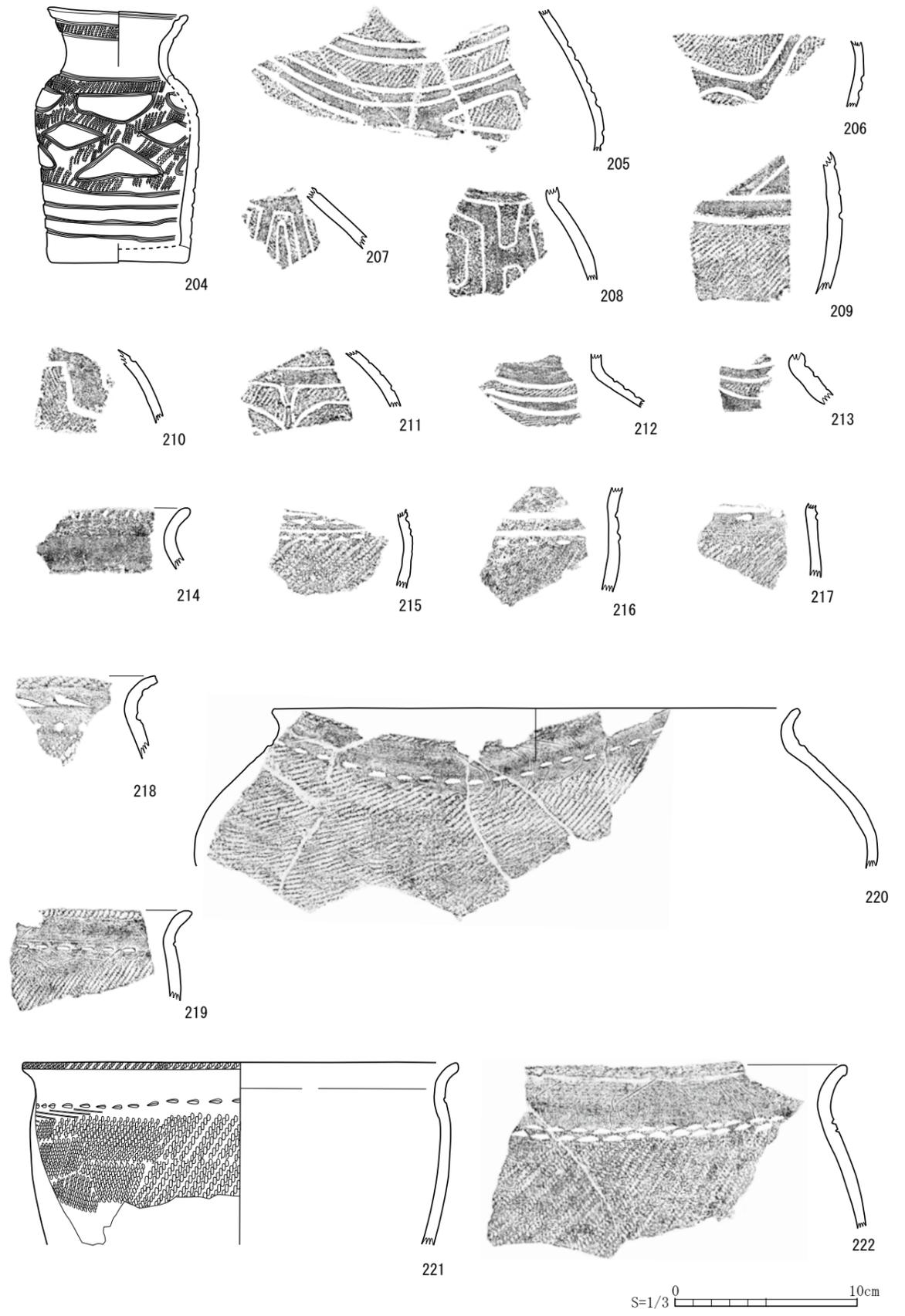
佐藤祐輔ほか 2022 「宮城県鳴瀬川採集の縄文・弥生土器」『宮城考古学』第24号  
 佐藤嘉広 1994 「岩手県二戸市金田一川遺跡出土の土器について」『岩手考古学』第6号  
 佐原 真 1987a 「東北地方における遠賀川系土器」『弥生文化の研究4 弥生土器II』雄山閣  
 佐原 真 1987b 「みちのくの遠賀川」『東アジア考古と歴史 中』岡崎敬先生退官記念論集  
 設楽博己 1991 「関東地方の遠賀川系土器」『古文化論叢』児島隆人先生喜寿記念論集  
 設楽博己 2014 「農耕文化複合と弥生文化」『国立歴史民俗博物館研究報告』第185集  
 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2021 「島根県西川津遺跡出土品1」『島根県古代文化センター調査研究報告』56  
 志間泰治 1971 『鱸沼遺跡』  
 周東一也 1977 『岩代国宮崎遺跡』金山町教育委員会  
 白鳥文雄ほか 1997 『宇田野(2)遺跡・宇田野(3)遺跡・草薙(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書217  
 菅原哲文ほか 2019 『上竹野遺跡第1・2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書234  
 菅原俊行ほか 1984 『秋田市秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上E遺跡・湯ノ沢A遺跡・湯ノ沢C遺跡・湯ノ沢E遺跡・湯ノ沢F遺跡・湯ノ沢H遺跡・野形遺跡』秋田市教育委員会  
 菅原俊行ほか 1986 『秋田市秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 地蔵田B遺跡・湯ノ沢I遺跡・湯ノ沢F遺跡・台A遺跡』秋田市教育委員会  
 杉原荘介 1968 「福島県成田における小堅穴と出土土器」『考古学集刊』4-2  
 杉山浩平 2005 「東日本弥生社会における大陸系磨製石器の出現」『日本古代の鄙と都』岩田書院  
 鈴木克彦 1988 「本州北端における異系統土器の波及と展開」『弘前大学国史研究』84 弘前大学国史研究会  
 鈴木正博 1987a 「『流れ』流れて北奥『遠賀川系土器』」『利根川』第8号  
 鈴木正博 1987b 「『白幡本宿式』土器考」『埼玉考古』第23号  
 鈴木正博 2000 「砂沢式縁辺文化生成論序説」『婆良岐考古』第22号  
 鈴木裕一郎 2012 『中穴牛遺跡』二戸市埋蔵文化財センター調査報告書11  
 須藤 隆 2000 「弥生時代の東北地方」『宮城考古学』第2号  
 須藤 隆 2003 「土器の移動—東北地方における遠賀川系土器—」『考古学の方法 東北大学文学部考古学研究会会報』4 東北大学文学部考古学研究会  
 高島好一ほか 2004 『作B遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告105  
 高桑 登ほか 2004 『小田島城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書131  
 高瀬克範 2000 「東北地方初期弥生土器における遠賀川系要素の系譜」『考古学研究』46-4 考古学研究会  
 高瀬克範 2004 『本州島東北部の弥生社会誌』六一書房  
 高瀬克範 2017 「みちのく遠賀川再考」『季刊考古学』第138号 雄山閣  
 田鎖寿夫ほか 1995 『大日向2遺跡発掘調査報告書第2次～第5次調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書225  
 谷口 肇 1988 「東北遠賀川論の再検討及びその意義」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』別冊15  
 田畑直彦 2018 「遠賀川式土器の特質と広域編年・暦年代」『初期農耕活動と近畿の弥生社会』雄山閣  
 田畑直彦 2021 「山陰地方における綾羅木・高槻系土器」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集25  
 田村正樹 2019 『二月田貝塚第3次調査・東宮貝塚第2次調査』七ヶ浜町文化財調査報告書12  
 茅野嘉雄ほか 2016 『金沢街道沢(1)遺跡・新沢(1)遺跡・新沢(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書563  
 千葉直樹ほか 2010 『鍛冶沢遺跡』宮城県文化財調査報告書222  
 鳥取教育文化財団 1982 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』島根県教育文化財団報告書11  
 鳥谷芳雄編 2000 『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IX 三田谷I遺跡vo1.3』島根県教育委員会  
 中村五郎 1982 『畿内第I様式に並行する東日本の土器』  
 成田正彦ほか 1988 『砂沢遺跡発掘調査報告書(図版編)』弘前市教育委員会  
 成田正彦ほか 1991 『砂沢遺跡発掘調査報告書(本文編)』弘前市教育委員会  
 根岸 洋 2020 『東北地方北部における縄文/弥生移行期論』雄山閣  
 林 謙作 1993 「クニのない世界」『みちのく弥生文化』大阪府立弥生文化博物館  
 原田敏照編 2013 『西川津遺跡・古屋敷遺跡II』主要地方道松江島根線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2 島根県教育委員会  
 深沢芳樹 2000 「刻目段甕のゆくえ—前期弥生土器における広域編年の試み—」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会  
 福山宗志 1995 「文化財資料整理事業 十三塚遺跡」『平成6年度年報』名取市文化財調査報告書36  
 藤田賢哉ほか 2003 『東飛塚館跡』秋田県文化財調査報告書359  
 松本岩雄 1992 「7 出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年—山陽・山陰編—』木耳社  
 松本 茂 1988 「岩下A遺跡」『真野ダム関連遺跡調査報告書XI』福島県文化財調査報告書193  
 水野一夫編 2007 『荒谷遺跡』八戸南郷区役所建設課  
 宮城県教育委員会 1977 『清太原西遺跡・船渡前遺跡』宮城県文化財報告書49  
 三宅博士編 1990 『朝酌川改修に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書III』島根県教育委員会  
 村木 淳ほか 2004 『是川中居遺跡中居地区G・L・M』八戸市遺跡調査会埋蔵文化財調査報告5  
 村越 潔 1965 「東北北部の縄文式に後続する土器」『弘前大学教育学部紀要』14  
 目黒吉明 1962 「福島県田村郡御代田遺跡について」『東北考古学』第3号  
 目黒吉明ほか 1998 『鳥内遺跡発掘調査報告書』石川町埋蔵文化財調査報告書16  
 森 貴教 2021 「東北地方北部の柱状片刃石斧をめぐって」『靱』第10号 弥生時代研究会



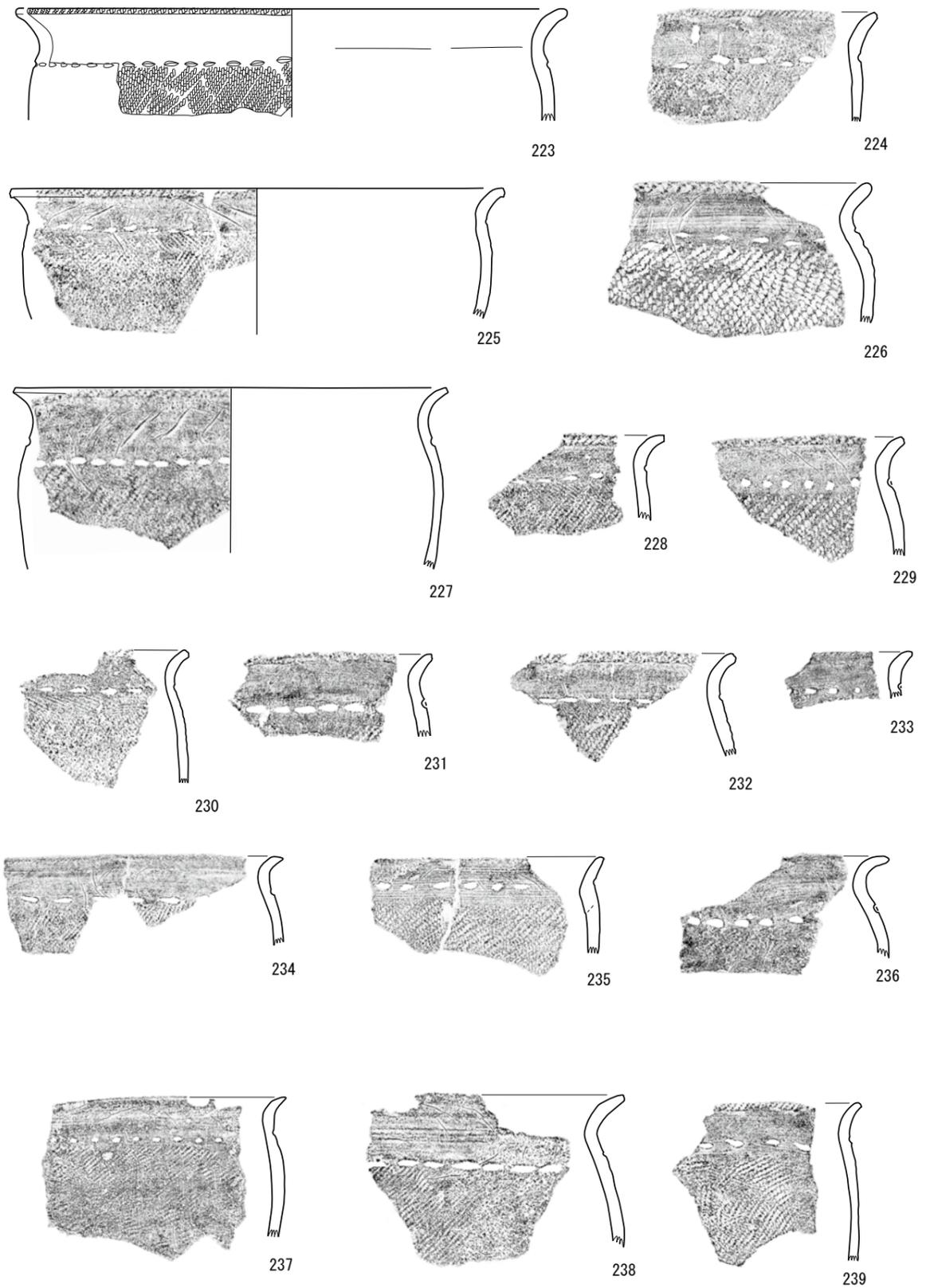
第4図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(11)



第5図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(12)

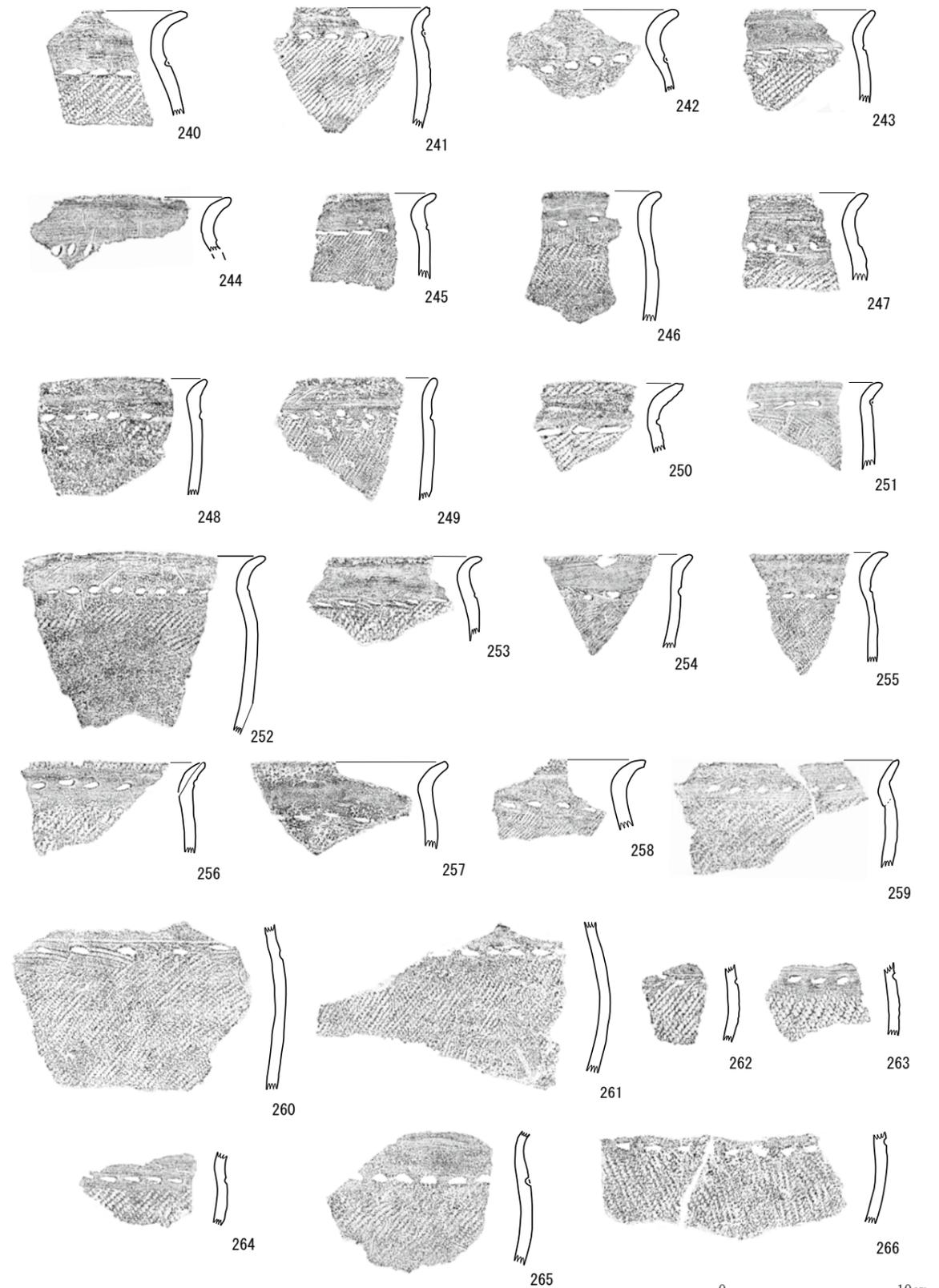


第6図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(13)



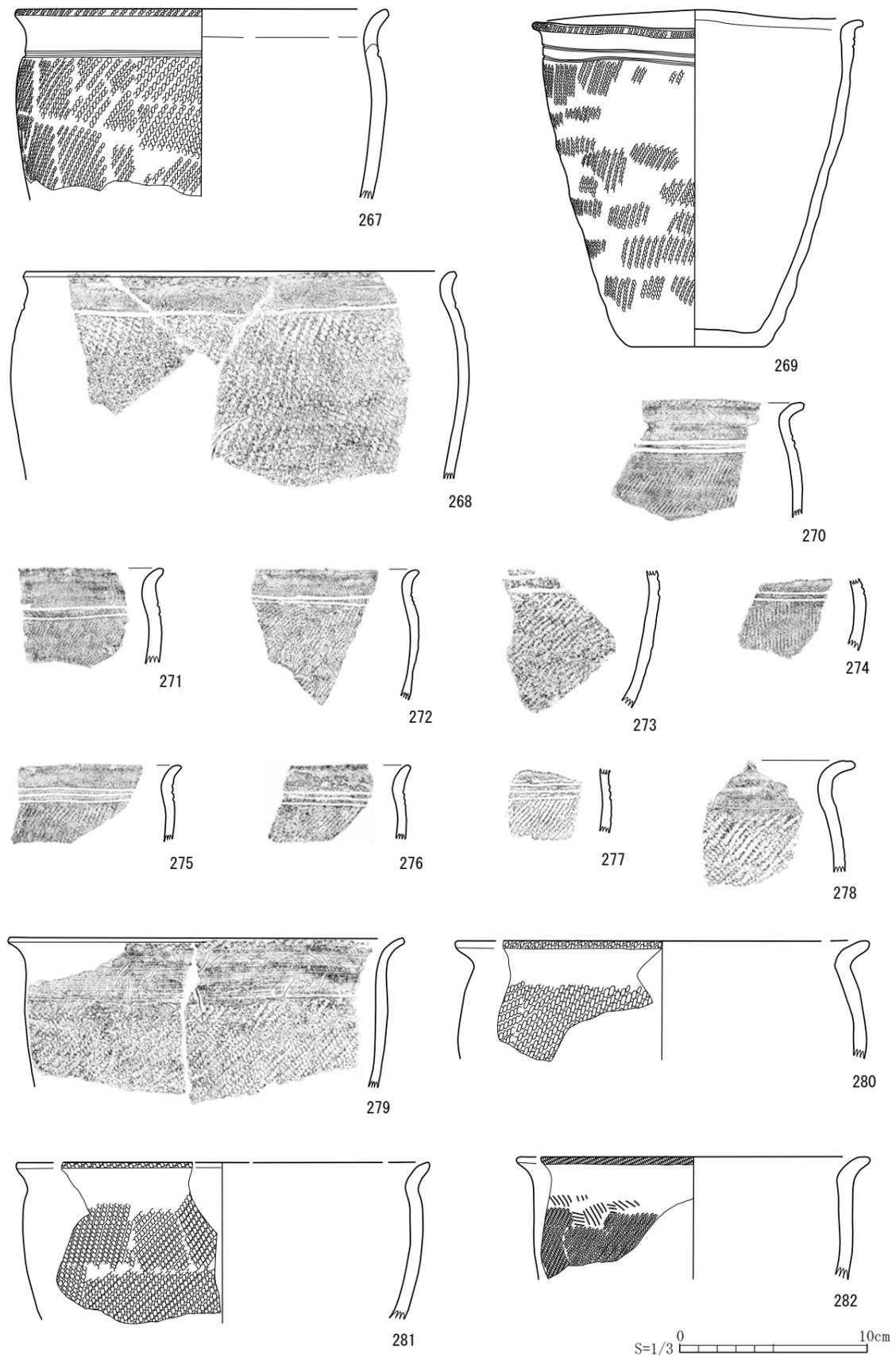
S=1/3 0 10cm

第7図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(14)

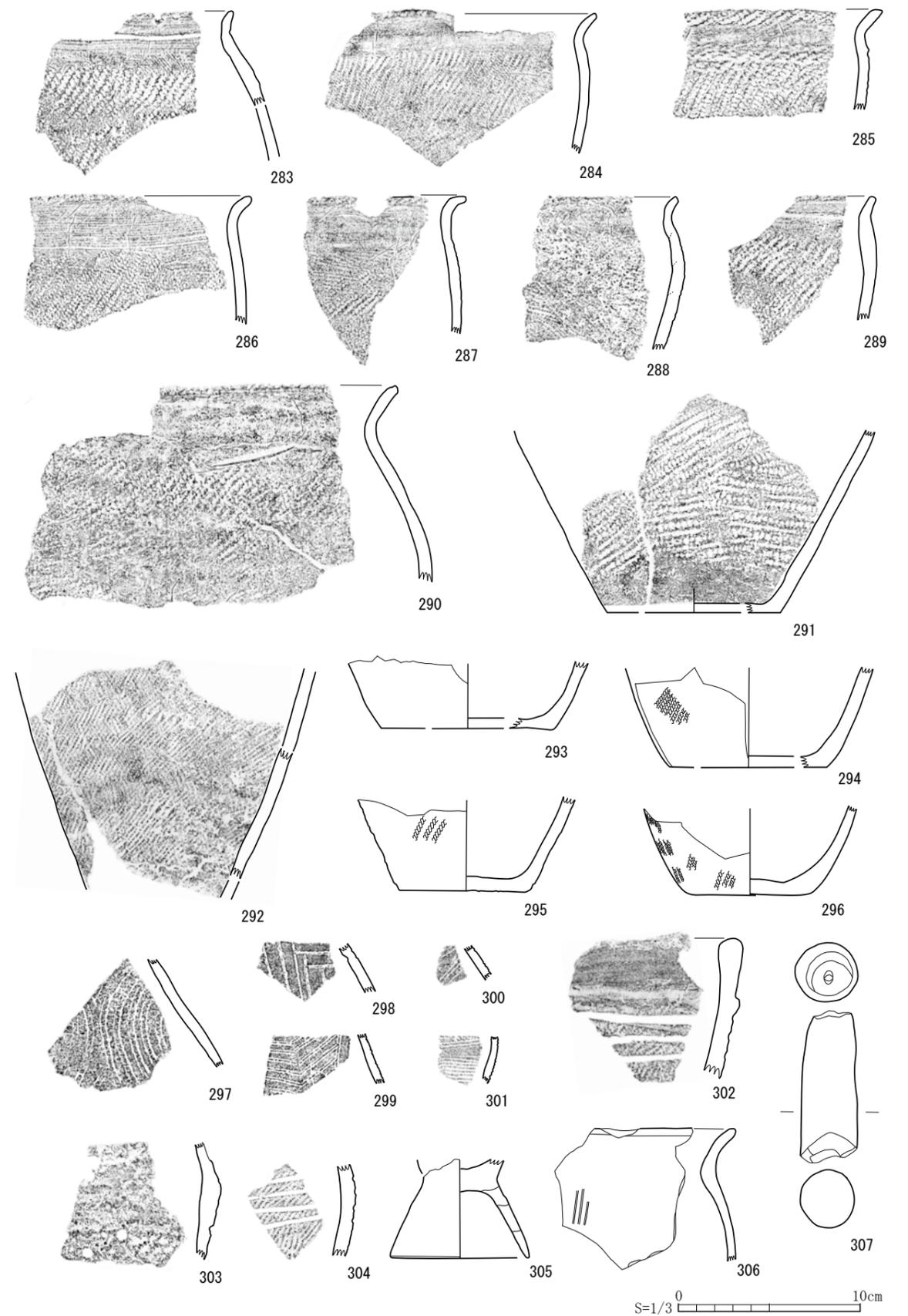


S=1/3 0 10cm

第8図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(15)



第9図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(16)



第10図 飯野坂遺跡弥生土器実測図(17)

第2表 飯野坂遺跡弥生土器観察表(1)

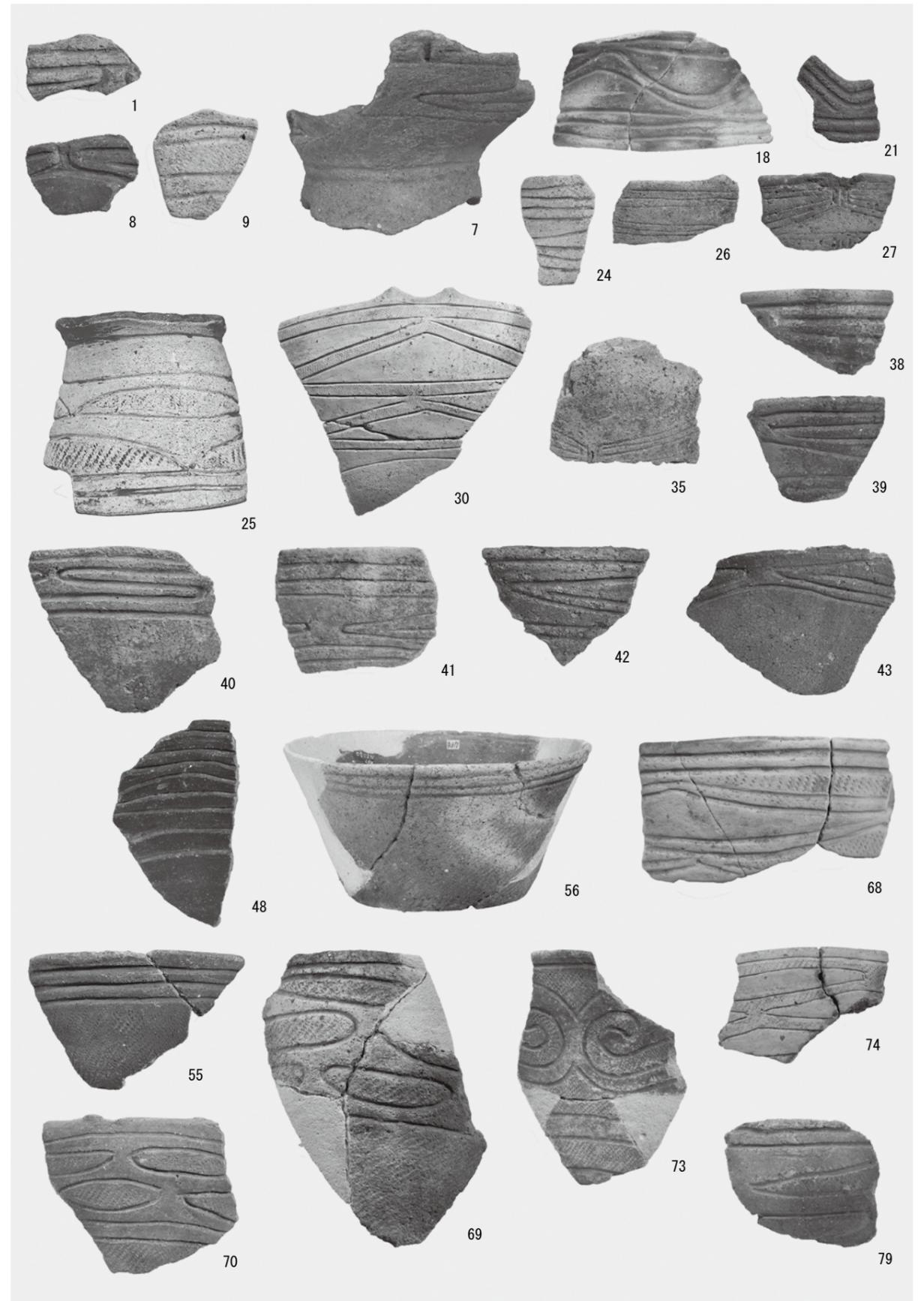
番号	種別	器種	部位	特徴		法量(cm)			備考	登録番号
				外面	内面	口径	底径	器高		
165	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:沈線文 頸部:2条列点文 体部:沈線外列点文、ミガキ	ミガキ	(21.2)	(21.3)		R184	
166	弥生土器	壺	口縁部	口唇部:沈線文 ミガキ	ミガキ	(25.4)	(3.6)		R185	
167	弥生土器	壺	口縁部	口唇部:沈線文 体部:沈線文、ミガキ	ミガキ	(24.0)	(3.5)		R186	
168	弥生土器	壺	口縁~体部	ミガキ	ミガキ	(11.2)	(6.8)		R207	
169	弥生土器	壺	体部	沈線間列点文、ミガキ	ミガキ		(7.2)		R188	
170	弥生土器	壺	体部	1条列点文、ミガキ	ミガキ		(11.3)		R192	
171	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(2.5)	沈線区画内赤彩	R200	
172	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(4.4)	沈線区画内赤彩	R195	
173	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(3.6)		R198	
174	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(3.0)		R193	
175	弥生土器	壺	体部	沈線文	ミガキ		(4.4)		R194	
176	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(3.4)		R197	
177	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	不明		(3.3)		R196	
178	弥生土器	壺	体部	沈線文、ミガキ	ミガキ		(2.8)		R201	
179	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(1.8)		R203	
180	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(4.2)		R199	
181	弥生土器	壺	体部	平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(4.0)		R202	
182	弥生土器	壺	体部	横位ハケメ、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(2.9)	縄文部赤彩	R204	
183	弥生土器	壺	体部	縄文LR、ミガキ	ミガキ		(2.8)		R205	
184	弥生土器	壺	口縁部	ミガキ	ミガキ	(10.8)	(3.4)		R211	
185	弥生土器	壺	口縁~体部	頸部:貼り付け突帯、ミガキ	ミガキ	(12.0)	(6.0)		R208	
186	弥生土器	壺	口縁部	頸部:貼り付け突帯、ミガキ	口縁部:くぼみをめぐらす ミガキ	(11.6)	(5.5)		R209	
187	弥生土器	壺	口縁部	口縁部:平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(3.9)	山形口縁、頂部に刻目	R216	
188	弥生土器	壺	口縁~頸部	口縁部:平行沈線文、ミガキ	口縁部:沈線文、ミガキ	(6.5)	(4.3)		R213	
189	弥生土器	壺	口縁部	口縁部:平行沈線文、ミガキ	ミガキ		(4.2)		R214	
190	弥生土器	壺	口縁~頸部	口縁部:平行沈線文、ミガキ	ミガキ	(6.8)	(6.4)	沈線区画内赤彩	R212	
191	弥生土器	壺	口縁~頸部	口縁部:肥厚帯をめぐらしその上下を沈線で区画する	口縁部:くぼみをめぐらす ミガキ	8.2	4.5		R210	
192	弥生土器	壺	口縁~頸部	口縁部:平行沈線間縄文帯 ミガキ	口縁部:くぼみをめぐらす ミガキ		(2.8)		R215	
193	弥生土器	壺	体部	波状文、ミガキ	ミガキ		(4.1)	194と同一個体か	R16	
194	弥生土器	壺	体部	波状文、ミガキ	ミガキ		(3.0)		R217	
195	弥生土器	壺	体部	変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(1.9)	磨消浮帯文	R218	
196	弥生土器	壺	体部	磨消工字文、縄文LR、ミガキ	不明		(3.6)		R219	
197	弥生土器	壺	体部	変形工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(2.6)		R222	
198	弥生土器	壺	体部	磨消工字文、縄文LR、ミガキ	不明		(3.8)		R220	
199	弥生土器	壺	体部	工字文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(3.2)		R221	
200	弥生土器	壺	口縁~体部	磨消精円文、縄文LR、ミガキ	口縁部:沈線文、ミガキ	6.4	(6.4)		R223	
201	弥生土器	壺	体部	磨消円文?、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(2.9)		R235	
202	弥生土器	壺	体部	磨消円文、縄文LR	ミガキ		(2.1)		R234	
203	弥生土器	壺	体部	磨消円文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(5.6)		R233	
204	弥生土器	壺	ほぼ完形	口縁部:平行沈線間縄文帯 体部:磨消三角文・変形文、縄文LR ミガキ	口縁部:沈線文 ミガキ	7.8	7.7	14.1	R338	
205	弥生土器	壺	体部	磨消三角文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(7.7)	縄文部赤彩	R224	
206	弥生土器	壺	体部	磨消幾何学文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(2.9)	205と同一個体	R231	
207	弥生土器	壺	体部	磨消幾何学文、縄文LR、ミガキ	ハケメ		(2.7)	縄文部赤彩	R230	
208	弥生土器	壺	体部	磨消幾何学文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(5.1)	縄文部赤彩	R226	
209	弥生土器	壺	体部	磨消幾何学文?、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(6.9)		R225	
210	弥生土器	壺	体部	磨消幾何学文、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(3.7)		R227	
211	弥生土器	壺	体部	磨消工字文、縄文LR、ミガキ	不明		(3.0)		R229	
212	弥生土器	壺	体部	磨消変形工字文?、縄文LR、ミガキ	ミガキ		(2.6)		R232	
213	弥生土器	壺	体部	磨消変形工字文?、縄文LR、ミガキ	ナデ		(2.3)		R228	
214	弥生土器	壺	口縁部	口唇部:刻目 口縁部:ヨコナデ	ミガキ		(2.9)		R336	
215	弥生土器	壺	体部	口縁部:沈線間列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(4.4)		R287	
216	弥生土器	壺	体部	口縁部:沈線外列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(5.8)		R335	
217	弥生土器	壺	体部	口縁部:ヨコナデ、沈線外列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(4.0)		R285	
218	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、2条列点文	ミガキ		(3.8)	列点は大きさ、形状が異なる	R275	
219	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(5.0)		R240	
220	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ	(29.0)	(8.6)	内面口縁部に煤状付着物	R238	

第3表 飯野坂遺跡弥生土器観察表(2)

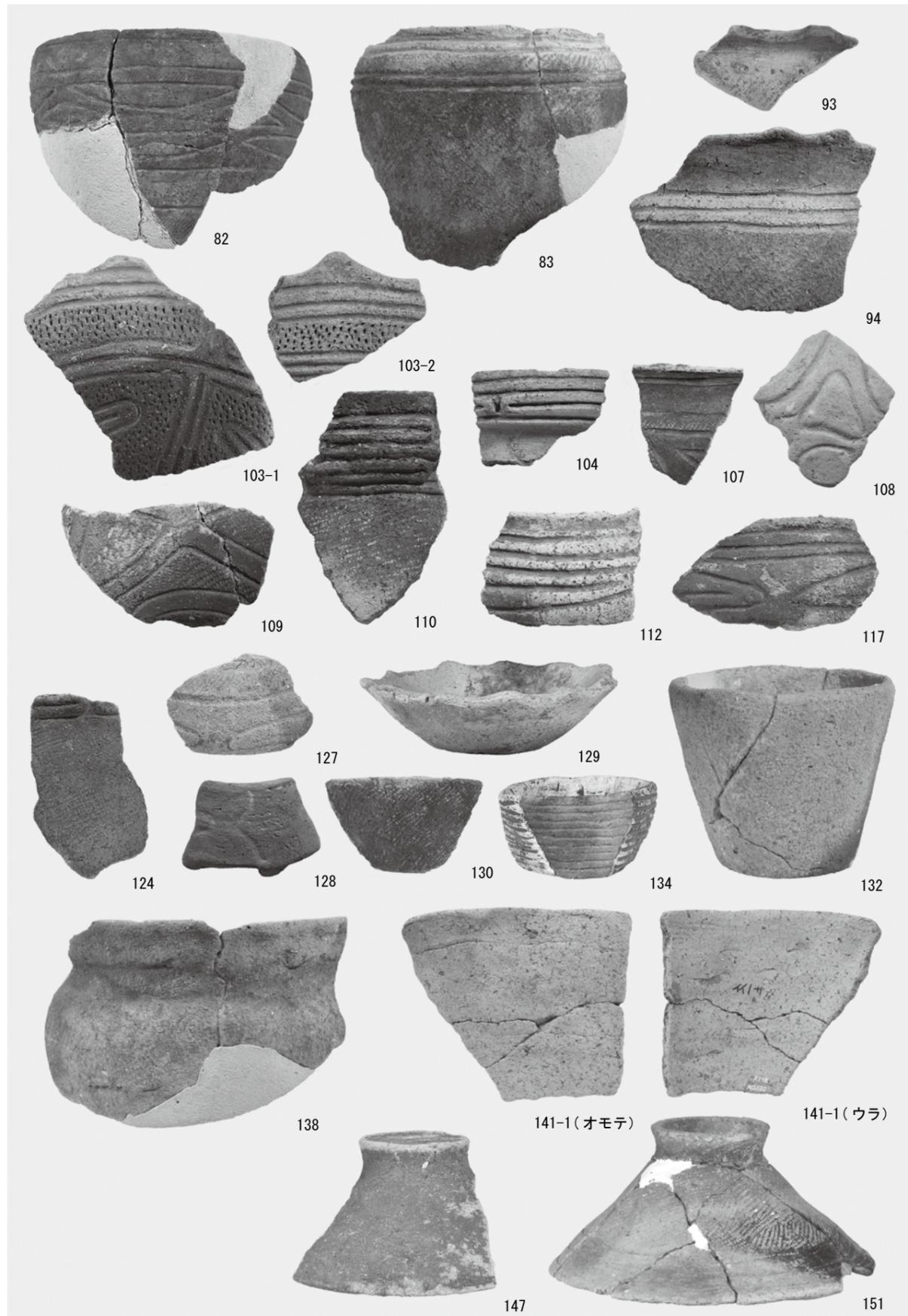
番号	種別	器種	部位	特徴		法量(cm)			備考	登録番号
				外面	内面	口径	底径	器高		
221	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:ハケメ(部分)、縄文LR	ミガキ	(24.0)	(10.0)	230と同一個体か	R243	
222	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:直前段多条L3R 口縁部:ヨコナデ、2条列点文	ミガキ		(9.0)		R249	
223	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ	(29.2)	(6.2)		R242	
224	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(5.9)		R244	
225	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ	(26.2)	(6.9)		R239	
226	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(7.4)	内面全体に煤状付着物	R236	
227	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ	(23.0)	(9.8)		R237	
228	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:列点文	ミガキ		(4.6)		R241	
229	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(6.3)		R245	
230	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:ハケメ(部分)、縄文LR	ミガキ		(7.1)		R246	
231	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(4.3)		R247	
232	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(5.4)		R248	
233	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(2.3)		R252	
234	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(4.6)		R250	
235	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(5.1)		R251	
236	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(5.4)		R253	
237	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(7.5)		R255	
238	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:直前段多条L4R 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(8.1)		R256	
239	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(8.4)		R257	
240	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(5.6)		R258	
241	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(6.6)		R259	
242	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(4.3)		R260	
243	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(5.1)		R261	
244	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(3.4)		R262	
245	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:列点文	ミガキ		(4.7)		R263	
246	弥生土器	壺	口縁部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:縦位ハケメ、縄文LR	ミガキ		(7.1)		R264	
247	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:列点文、ミガキ	ミガキ		(4.9)		R265	
248	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(6.3)		R266	
249	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(6.5)		R267	
250	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(3.6)		R268	
251	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(4.5)		R269	
252	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(9.7)	列点に塗膜	R270	
253	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(4.1)		R271	
254	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ		(5.1)		R272	
255	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(6.0)		R273	
256	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:直前段多条L3R 口縁部:列点文、ミガキ	ミガキ		(4.9)		R274	
257	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(4.7)		R276	
258	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文	ミガキ		(3.7)		R277	
259	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:列点文	ミガキ		(5.7)		R308	
260	弥生土器	壺	体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:ハケメ(部分)、縄文LR	ミガキ		(9.1)		R278	

第4表 飯野坂遺跡弥生土器観察表(3)

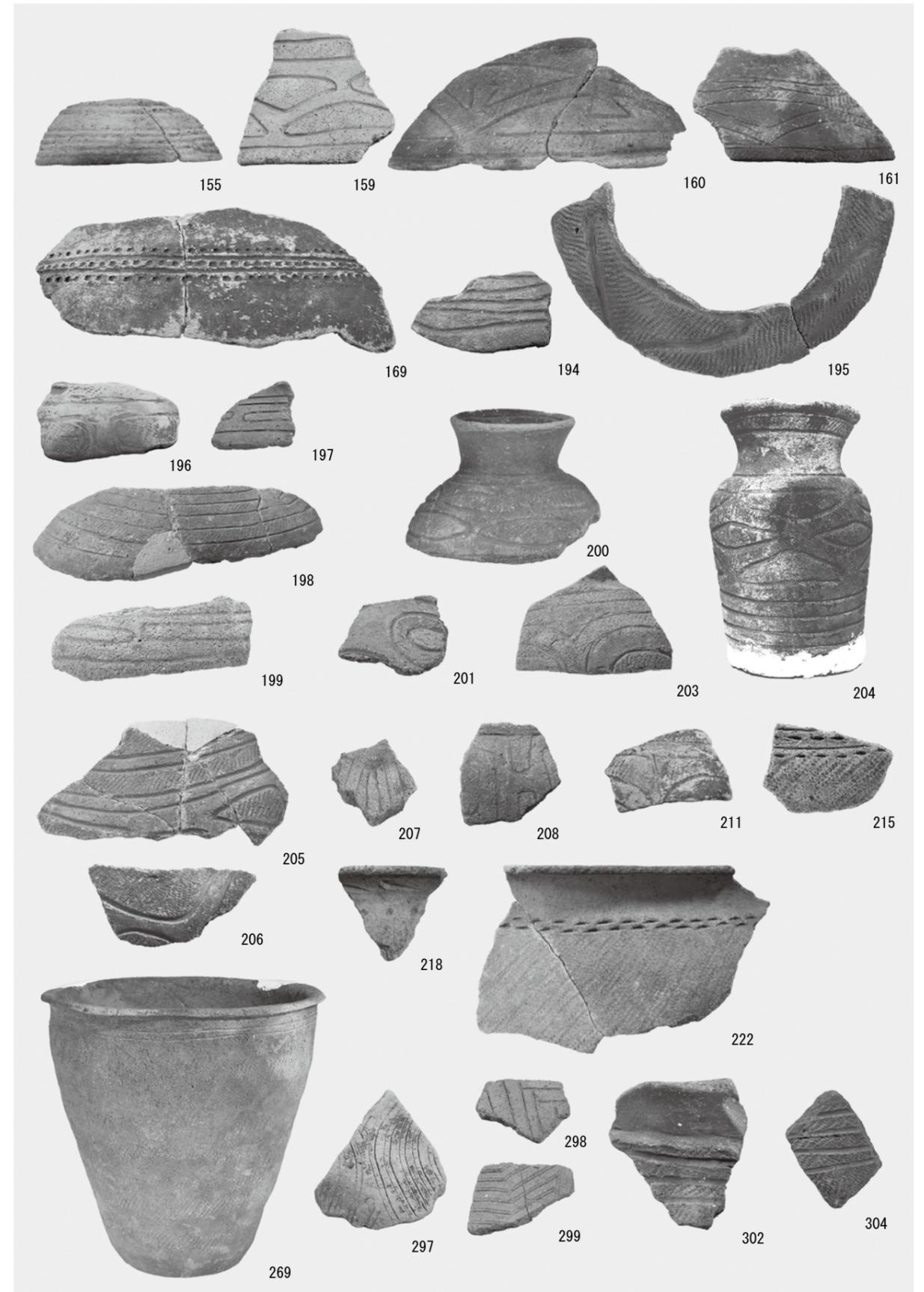
番号	種別	器種	部位	特徴		法量(cm)			備考	登録番号
				外面	内面	口径	底径	器高		
261	弥生土器	壺	体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:直前段多条L3R	ミガキ			(8.3)		R284
262	弥生土器	壺	体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:直前段多条L3R、ハケメ	ミガキ			(4.2)		R280
263	弥生土器	壺	体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ			(4.0)		R281
264	弥生土器	壺	体部	口縁部:ハケメ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ			(3.9)		R282
265	弥生土器	壺	体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ			(7.2)		R279
266	弥生土器	壺	体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ			(5.0)		R283
267	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ	(20.0)		(10.2)		R314
268	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:縄文LR	ミガキ	(23.0)		(11.1)		R288
269	弥生土器	壺	ほぼ完形	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、平行沈線文	ミガキ	17.7	7.2	17.5	底部木葉痕	R312
270	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、平行沈線文	ミガキ			(5.9)		R292
271	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、平行沈線文	ミガキ			(5.1)		R294
272	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、平行沈線文	ミガキ			(7.0)		R291
273	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ、平行沈線文 体部:縄文LR	ミガキ			(7.4)		R290
274	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ、平行沈線文 体部:縄文LR	ミガキ			(3.9)		R297
275	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:平行沈線文 体部:縄文LR	ミガキ			(4.0)		R295
276	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ、平行沈線文 体部:縄文LR	ミガキ			(4.0)		R293
277	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:平行沈線文 体部:縄文LR	ミガキ			(3.4)		R296
278	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ 体部:縄文LR	ミガキ			(5.9)		R309
279	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ 体部:縄文LR	ミガキ	(21.0)		(8.0)		R298
280	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ 体部:縄文LR	ミガキ	(22.0)		(6.3)		R300
281	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ	ミガキ	(22.0)		(8.4)		R301
282	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ 体部:ハケメ、縄文LR	不明	(18.8)		(6.5)		R304
283	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、沈線文	ミガキ			(8.0)		R299
284	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ	ミガキ			(7.7)		R302
285	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:直前段多条L4R 体部上端に原体側面圧痕	ミガキ			(5.5)		R303
286	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ	ミガキ			(7.1)		R305
287	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ、列点文 体部:ハケメ、縄文LR	ミガキ			(7.5)		R306
288	弥生土器	壺	口縁~体部	口縁部:ヨコナデ 体部:ハケメ	ミガキ			(8.4)		R307
289	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ	ミガキ			(6.7)	内面口縁部に煤状附着物	R310
290	弥生土器	壺	口縁~体部	口唇・体部:縄文LR 口縁部:ヨコナデ	ミガキ			(10.9)		R311
291	弥生土器	壺	体部~底部	直前段多条L4R、ミガキ	ミガキ		(9.4)	(10.0)	内面に煤状附着物	R319
292	弥生土器	壺or壺	体部	縄文LR、原体側面圧痕文	ミガキ			(12.0)		R313
293	弥生土器	壺	体部~底部	ミガキ	ミガキ	(9.6)	(3.6)		底部木葉痕	R316
294	弥生土器	壺or壺	体部~底部	縄文LR	ミガキ	(8.6)	(5.4)			R315
295	弥生土器	壺or壺	体部~底部	縄文LR	ミガキ	(7.2)	(5.0)		底部木葉痕	R318
296	弥生土器	壺or壺	体部~底部	縄文LR		(6.4)	(4.8)		底部:指頭圧痕	R317
297	弥生土器	壺	体部	二本同時施文具による円文	不明		(5.8)		十三塚式	R320
298	弥生土器	壺	体部	二本同時施文具による重菱形文?	不明		(2.6)		十三塚式	R321
299	弥生土器	壺	体部	二本同時施文具による肋骨文	ミガキ		(2.8)		十三塚式	R322
300	弥生土器	不明	体部	二本同時施文具による円文?	ミガキ		(1.7)		十三塚式	R323
301	弥生土器	不明	体部	二本同時施文具による体部区画文 擦糸文R	不明		(2.6)		十三塚式	R324
302	縄文土器	深鉢	口縁部	突帯 平行沈線文、縄文LR、ミガキ	ミガキ			(7.7)	縄文時代後期	R325
303	縄文土器	深鉢	体部	円形竹管文、縄文LR	不明			(6.5)	縄文時代後期	R328
304	縄文土器	深鉢	体部	横位沈線文、縄文LR	ミガキ			(4.8)	縄文時代後期	R327
305	土師器	台付壺	台部	不明	不明			(5.4)	古墳時代前期	R330
306	土師器	壺	口縁~体部	ハケメ?	不明			(7.2)	不明	R329
307	土師器	高坏	脚部	不明	不明			(7.5)	古墳時代前期	R331



写真図版1 飯野坂遺跡弥生土器(1)



写真図版2 飯野坂遺跡弥生土器 (2)



写真図版3 飯野坂遺跡弥生土器 (3)

## 名取市歴史民俗資料館年報 —令和5年度—

発行：名取市歴史民俗資料館  
〒981-1224  
宮城県名取市増田一丁目7-37  
Tel.022-724-7935/Fax022-724-7936  
URL：<https://natori-shiryokan.jp/>  
発行日：令和6年11月30日

印刷：株式会社ペナントコーポレーション  
〒981-1236  
宮城県名取市愛島小豆島字末無窪71-6